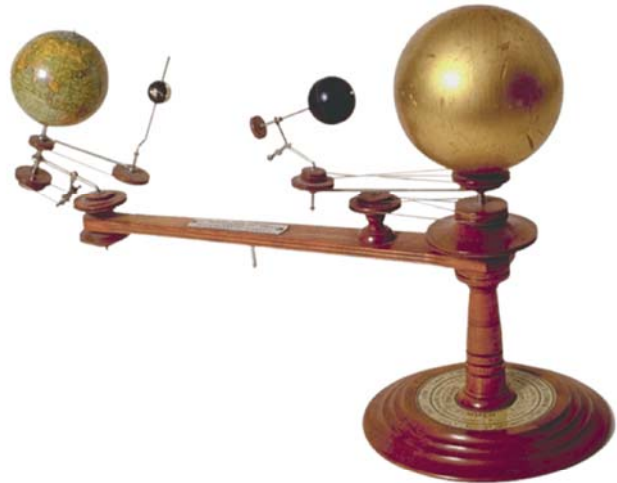


みんなで作るうええまち堺市民1000人委員会編

市政レポート第17号

二〇二四年九月



堺の教育を考える

市民 1000 人委員会は「第 14 回市政チェック学習会」を 2024 年 8 月 24 日(土)午後 1 時 30 分～4 時、堺市産業振興センターで開きました。集会参加は 82 名でした。

そのご報告を『市政レポート第 17 号』としてお届けします。

司会は、塩野直美さん（北区）でした。

市民 1000 人委員会 顧問	
高橋 保さん(元副市長)	
ご出席の堺市議会議員の皆さん	
長谷川俊英さん	林原 徹さん
藤本幸子さん	淵上猛志さん
森田晃一さん	
(五十音順)	

も く じ

開会あいさつ	塩野 直美さん（市民1000人委員会事務局）	2
< 報告 > 教員は現場でどう苦闘しているか		3
	早乙女 誠さん（堺市中学校教員）	
< 報告 > 不登校をどうとらえるか		10
	井前 弘幸さん（大阪の教育を考える堺市民の会）	
< 両報告への質疑応答・交流 >		17
< 報告 > 国もダメ出し自動運転バス		
	淵上 猛志さん（堺市議会議員）	20
< 市議へのクエスチョンタイム > 各市議に聞く		22
< 市民運動報告と交流 >		
* 中学校教科書採択に向けた取り組み	村上寿美子さん	26
* 10/27 堺区図書館をつくろうシンポジウム	松永 直子さん	29
* 6/30『夢みる校長先生』上映会	河端 紀子さん	30
* 9/21『わたしのかあさん』上映会	田中 晋一さん	31
* 児童自立支援施設裁判の状況	廣田八重子さん	32
閉会あいさつ	吉村 薫さん（市民1000人委員会事務局）	33
第 6 期会計報告		34

開会あいさつ

塩野 直美さん（市民 1000 人委員会事務局）

皆様、暑い中ご参加いただき、ありがとうございます。私は本日、司会を務めさせていただきます塩野直美と申します。最後までよろしくをお願いします。

自己紹介をさせていただきます。私は娘が3人おりまして、上の子が中学2年生、真ん中が小学校6年生で、下は年中クラスです。働きながらの子育てですので、保育園や学童保育にも大変お世話になり、堺市が働きながら子育てしやすく暮らしやすい街になってほしいという気持ちで、市民 1000 人委員会発足当時から関わらせてもらっています。

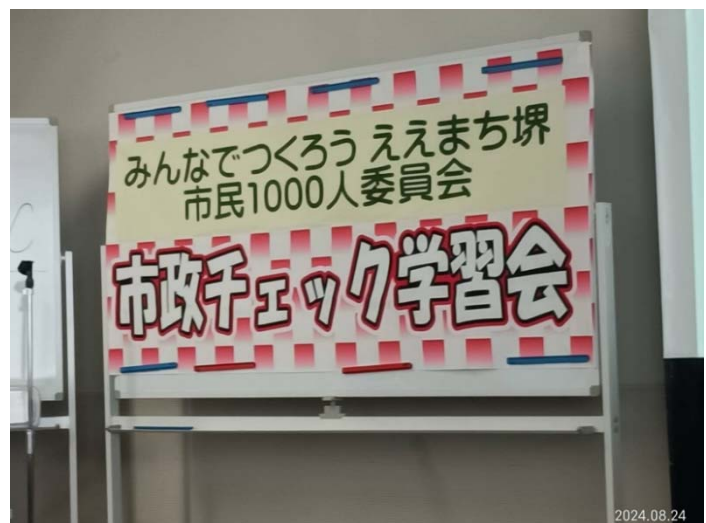


現在6年生の次女がコロナの休校明けから不登校になり、今年で3年目になっています。次女は繊細で感受性が強く、学校では1クラス37人の集団の中でみんなに合わせるのに疲れてしまうようです。国では教育機会確保法ができて、不登校は誰にでも起こることとして、学校以外の多様な学びが必要だとされています。ですが、現実には小学生が安心して過ごせる場所はまだまだ少ないです。今の学校が合わないというだけで、娘を見ていても、どの子もきらりと光るものを持っています。

堺市は政令市として教育問題でも独自にできることがあるはずですが、学校教育がもう少し子どもが自由に学べる場所になってほしい。そのために、堺市民として何ができるのか考えたいと思っています。

不登校は当事者だけの問題でなく、社会全体の問題だと捉えて様々な立場を、年配の方も一緒に考えてくれるということは、当事者としても心強いと感じています。

本日のテーマは「堺の教育を考える」です。30万人とも言われている不登校生徒が生み出されている現状を考える、その背景について、早乙女誠さん、井前弘幸さんのお二人からご報告をいただきます。これに対して、参加者の皆様からご質問、ご意見、ご感想を頂き、交流して今後も考えていくきっかけになればと考えています。また前回取り上げました自動運転バスについて、国が補助金申請を却下した問題を瀧上猛志市議会議員から報告を受けます。そして、恒例となりました市議会議員へのクエスチョンタイムを設けております。そして最後に、市民運動報告を行います。



<報告>

教員は現場でどう苦闘しているか

早乙女 誠さん（堺市中学校教員）



堺市の中学校で15年勤務しています。一昨年から組合専従として堺教組で働いています。今日は学校現場の状況であるとか組合で集めたアンケートを紹介しながら、堺の学校の先生がどういう状況に置かれているのか、どんな思いで仕事しているのかをご紹介します。

教育に穴が空く「教員の未配置問題」今年3月には100人超まで

数年前から言われています、先生が足りない、未配置問題です。今年の5月から未配置の状況について教育委員会から報告を受けています。現在、小中高支援学校、幼稚園も含めて23名の欠員があります。病休、産休、育休でお休みされている先生の代わりの方がいないということです。妊娠サポートは前年の終わりの段階でも妊娠が分かっている先生がいらっしゃったら、その先生の代わりを年度途中から入れるのではなくて、4月の年度の最初から代わりの先生を入れておくという制度ですが、4月から先生を配置できるという制度であるにもかかわらず、残念ながら今年12人が未配置です。

1番左の列の定数内の数は先生の未配置の数です。具体的なケースで言うと、年度末に退職された、あるいはそもそも先生が必要だったのに採用できなかった。これは中学校の特定の教科で多いのです。昨年場合は技術科が3～4名採用が必要でしたが、1人か2人しか採用できなかったという現状がありまして、春から先生が全くいないというような状況。これが5月1日の時点で23人だったものが、8月は32名に増えています。

内訳を見ると、妊娠サポートの欠員は減っています。出産を予定していたほとんどの方が産休育休に入っておられる。だから妊娠サポートの未配置は減ってきています。ただ、その分産育休代替というのが増えています。産育休に入っているけども代わりは来ていません。

定数内でも既に年度途中で退職している先生がバラバラいます。中学校だけで見ると、病気で休みされている先生の代わりが来ていないというのが増えていっています。小学校の場合は、年度当初の妊娠サポート12名あった未配置が、結局そのまま産休育休の未配置につながってきました。春に見つからなかったら夏になっても代替の先生が見つかるということはないということです。去年一年間でどういう動きをしていたのかというと、去年はここ数年では非常に状況が悪かったです。（欠員が）春から60人を超える、夏になって70人になり、12月、冬には89人になり、3学期にこれたぶん100人を超えるかなというところまでになっています。

2024.5.1時点 未配置状況

校種	定数内 (欠員補充)	病休 代替	産休 代替	育休 代替	妊娠 サポート	合計
幼稚園	0	0	0	0	0	0
小学校	1	0	0	3(1)	12	16(1)
中学校	2	1	0	1(1)	0	4(1)
高校	0	0	0	0	0	0
支援学校	3(2)	0	0	0	0	3(2)
合計	6(2)	1	0	4(2)	12	23(4)

※()内は非常勤対応数

2024.8.5時点 未配置状況

校種	定数内 (欠員補充)	病休 代替	産休 代替	育休 代替	妊娠 サポート	合計
幼稚園	0	0	0	0	0	0
小学校	4	2(1)	3(3)	2	3	14(4)
中学校	4	5(1)	0	1(1)	1	11(2)
高校	0	0	0	0	0	0
支援学校	5(3)	1	1	0	0	7(3)
合計	13(3)	8(2)	4(3)	3(1)	4	32(9)

※()内は非常勤対応数

2023年度 未配置状況推移

	幼稚園	小学校	中学校	高校	支援学校	合計
5月1日	0	58	6	0	0	64
7月31日	2	62	4	2	0	70
12月18日	0	75	11	0	3	89

年度途中からどんどん悪化する未配置 加配教員も未配置

先生の欠員ってというのは春先の状況から年度途中でどんどん悪化していきます。春に先生が見つからない。当然、年度途中で見つけるのはもっと難しい。だから、年度途中に休みの先生が出てきても、出産、病気でお休みしますという先生が出てきても代わりが来ません。これがよく言われる「教育に穴が空く」未配置問題と言われるものです。表（前頁）の中で出しているのは、定数法で生徒の数やクラスの数とか定められている定数内の教員の中での未配置ということになります。学校にはさらに追加でこういう先生が欲しいという「加配教員」というのがありますが、それはもっとたくさん穴が空いています。あくまで定数法での欠員状況しか表に出てこないの、学校現場の先生らの感覚としては、あの先生もこの先生もない。休みの代わりだけじゃなくて、追加で欲しいと言っている先生が全然いない。現場の方から寄せられている声を紹介したいと思います。

現場教員の声

「最初に数人足りない状態で始まり、何人もが病休に入り、校長が担任をし、教頭不在のまま何ヶ月も過ごしました」

昨年、寄せていただいたアンケートから現場教員の声を紹介します。最近、学校現場、特に小学校では、先生がギリギリなので管理職も授業に入っています。管理職が休んでいる学校もありました。家庭科が欠員で他教科の先生が担当、英語科が1名欠員で補充が最後までなかった。中学校では特定の教科の先生がもういない。特定の教科の先生が見つからなければ、ずっといないまま最後まで年が終わるというケースも出ています。

「支援学級の担任がマイナス1。クラス数を1つ減らしてスタート」

担任する先生がいない。どうする。仕方なく支援学級を1つひとつ減らすなど、とんでもないことです。少人数学級とか言ってる中で、先生がおらんから1つにしよう、まとめてやろう。そんな状況が現場から上がってきています。

「講師が2学期末に退職し習熟度授業ができなくなっている」

堺の学校では、学力向上とか色々な目的で、習熟度別学習という子どもたちを少人数クラスに分けて授業をするというのをやっています。それをするための教員というのが先ほど言った加配教員が入ってくれないと困る。ところが、その人はここに来ない。あるいは、もうやめちゃった。どうなるかという、それはできない、習熟度別の学習はもう途中からやっていません。

授業をその先生に持ってもらう前提で計画をしているのに、来なかったらその授業ができないわけですね。当然、先ほどみたいに教科が決まっていれば、他の先生が代わりをするわけにもいかないので、自習にせざるを得ない。年度当初、先生来ていないから自習するしかないというような報告もたくさん来ています。

「代替講師が病休になり、『代替の代替はない』のルールで欠員」

そのまま退職されたがその後の補充もないまま、年度末まで担任不在。病休、産休、育休の代替の先生というのは、臨時教職員がちゃんとした辞令を出されて配置されますが、「代替の代替というのは任用できない」というルールになっています。代替講師が実際に休んでいて、子どもたちに授業をしないといけない。でも代わりの代わりは付けられない、先生を雇ってくれない。制度的なものに縛られて実態を無視しているようなことが起きている。誰が一番犠牲になっているのかという話じゃないですか。教育委員会の方はそれでもいいかもしれないですけどね。授業を受ける子どもたちとか、そこを埋めている先生方が、「代替の代替は雇いません」と言われても、納得できないじゃないですか。こういうことが実際にいろんな学校で頻発しています。

教員以外の多くの職員も欠員

欠員になっているのは先生だけではありません。学校にはたくさんの会計年度任用職員、教員以外の職員というのがたくさんいます。今年度の会計年度任用職員の配置数という表です。学校司書、保育補助員そういった職員の数ですが、特に黄色で示されている特別支援教育支援員、医療的ケア看護職員、2つの職員に関して言うならば、支援を要する子どもたちに、その子どもたちに直接対応する職員が今年度では239人募集をかけたけど、222人しか来てくれなかった。17人欠員になっています。

	募集数	配置数
部活動指導員 (6月任用予定者含む)	18	18
学校司書	73	73
保育補助員	3	3
特別支援教育支援員	239	222
医療的ケア看護職員	22	6
スクールカウンセラー	75	75
スクールソーシャルワーカー	14	9
預かり保育職員	12	12

同じく医療的ケア・看護職員、これはもっと支援の必要な方の中でも本当に医療的なケアが必要な子どもについてもらう職員が22人必要なのに6人しかいません。支援の必要な子どもが現場にいるし、学校にきています。でも、その子どもたちに対応する職員がいないという状況。

スクール・ソーシャルワーカー。学校現場は第三者機関といろいろ連携して社会的な制度ともつながっています。必要なスクール・ソーシャルワーカーは14人、募集をかけるけど9人しか来ない。教員不足と言われてはいますが、実際には教員以外の職でも人手不足が広がっています。

免許外教科担任で、いい授業ができるわけがない

具体的に子どもたちにどんな影響があるか。中学校で欠員が生じたらどういうことになるかを紹介します。中学校における免許外担任、臨時免許の発行件数、教育委員会に確認しました。免許外教科担任って何かといいますと、校内にその教科を教えらる先生がいなくなった場合、別の教科の先生がその教科を教えられるようにする制度です。家庭科の先生がいない。家庭科やらないわけにはいかない。誰か別の先生が免許外教科担任の制度を申請して家庭科を教えます。技術の臨時免許を発行して授業します。本来の教員免許を持っている先生以外の先生がいい授業できるのでしょうか?自分が行った学校でもそういう傾向がありました。他の教科を教えるのに必死です。自分の専門なら教えられても、そうじゃない教科を教えてくれって言われても。必死で教科書を見てとにかく教科書を終わらせなあかん。そういう授業にしかありません。さらに自分の教科も教えないといけない。

中学校における免許外担任・臨時免許発行件数

	H30	R1	R2	R3	R4
免許外教科担任	10	19	17	27	22
臨時免許状	3	2	2	3	2

免許外教科担任：校内の他教科の教諭が教科指導
臨時免許状：検定合格者に臨時で免許発行

全国的に見て高い堺市の非正規教員率

毎年10%以上、400~500人

なぜこういった状況が起きてきているのかといういろいろな理由があります。堺の場合、一つは非正規教員の問題です。本来必要な正規教諭の代わりに臨時教職員を当てているという割合が堺市は多い多いと言われています。数年前は全国1位で、週刊誌に載りました。5、6年前は400人ぐらいで推移していたのが、4、5年前ぐらいから500人を超えて、今年、500人前後で400人になるかという

定数内講師数と新規採用者数 及び 講師率

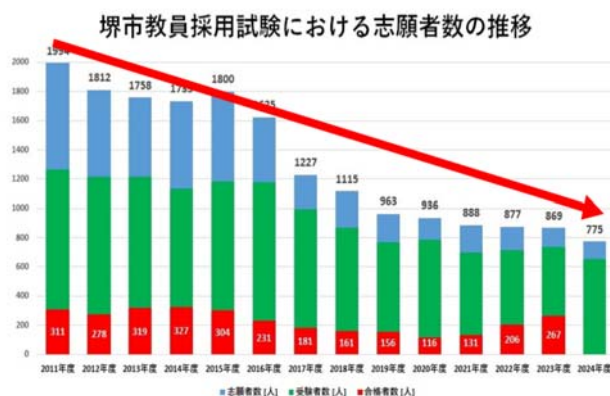


ところまでちょっとだけ下がりましたが割合としては 10%。問い合わせたタイミングによってパーセントが変わるので正式な数字は確定しませんが、大体毎年 10 パーセント以上は非正規教員です。

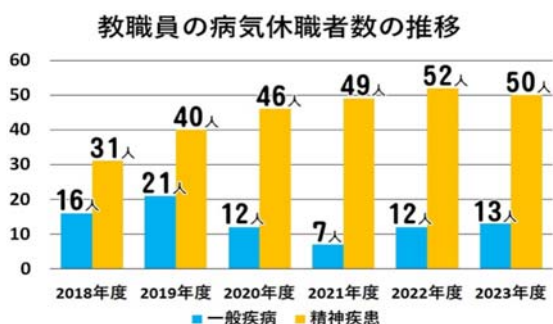
400、500 人の臨時教員います。「じゃあもっと採用したらいい」と言われますけど、採用者数はもっと少ないです。500 人ぐらい臨時教職員を使っているのに採用数は 200 人ぐらいしかない。一般企業で言えば社員ではなくアルバイトを当てている状態です。社員がすべき仕事のところにアルバイトを雇ってしのいでいる。元々、臨時教職員は定数内で採用し過ぎています。非正規率が高いというのが、代替が見つからない大きな理由になっています。採用者数を大きく上回る定数内講師、非常勤の講師をいっぱい使っています。全国的に見たら、堺より低いところがいっぱいあります。非正規教員が数パーセントのところはいっぱいあります。堺は非正規率がいつも高い。

激減している堺の教員志願者数

そういう学校現場の状況で、堺の教員採用は志願者数が激減しています。ここ数年ずっと減ってきています。私が採用されたころ、堺が政令市になって独自採用になった時 2000 人ぐらい志願者がありました。今年の志願者数 775 人、去年から 800 人を割込んで、堺で先生の志願者がいません。10 年で半分以下ぐらいに減っています。全国的にも 10 年ぐらいで 3 分の 2 ぐらいに減っています。



増える病休教員 堺市は都道府県・政令市で全国トップ



学校では病休の代わりが来ません。病気でお休みされる先生というのは本当に増えています。この 5、6 年です。学校の先生がブラックだと言われるようになって。堺の先生も志願者がどんどん減ってきているような状況の中で、休まれる方が毎年 50 人ぐらいいます。病気でお休みされると人不足で負担も大きい。頭打ち状態というような形ですね。この青

4. 病気休職

文部科学省 人事行政状況調査結果

精神疾患による病気休職者及び 1 か月以上の病気休職取得者数の推移 (対教育職員数割合)

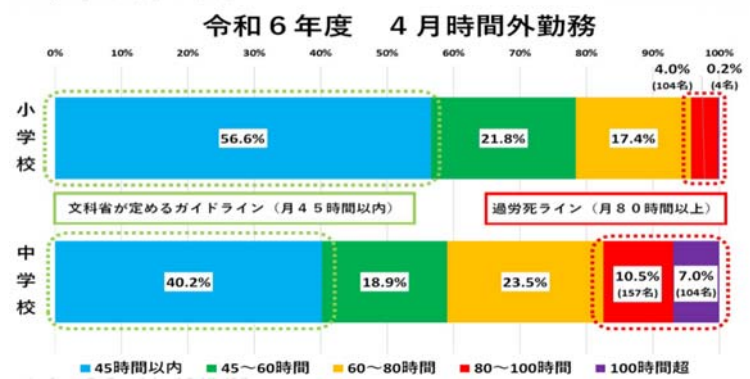
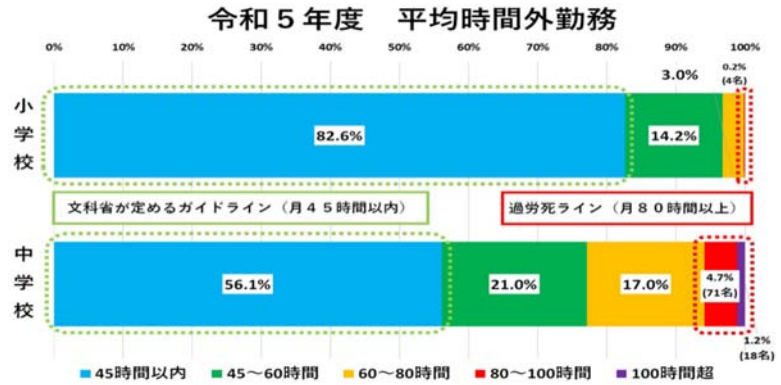
順位	H30		R1		R2		R3		R4	
	都道府県名	割合	都道府県名	割合	都道府県名	割合	都道府県名	割合	都道府県名	割合
1	京都市	1.51%	沖縄県	1.64%	沖縄県	1.62%	京都市	1.89%	堺市	2.63%
2	福岡市	1.51%	相模原市	1.64%	広島市	1.60%	福岡市	1.89%	大阪市	2.44%
3	沖縄県	1.50%	福岡市	1.51%	堺市	1.53%	堺市	1.86%	京都市	2.10%
4	宮城県	1.49%	東京都	1.50%	鳥取県	1.52%	沖縄県	1.79%	沖縄県	2.09%
5	大阪市	1.45%	広島市	1.46%	横浜市	1.50%	大阪市	1.76%	神戸市	1.88%
6	広島市	1.40%	横浜市	1.43%	相模原市	1.47%	広島市	1.68%	さいたま市	1.88%
7	東京都	1.33%	千葉市	1.37%	神戸市	1.46%	横浜市	1.67%	東京都	1.88%
8	広島県	1.32%	京都市	1.37%	東京都	1.38%	東京都	1.63%	福岡市	1.83%
9	横浜市	1.31%	堺市	1.36%	さいたま市	1.34%	さいたま市	1.62%	北九州市	1.81%
10	奈良県	1.27%	福岡県	1.35%	福岡県	1.32%	相模原市	1.62%	福岡県	1.73%
16	堺市	1.76%								
全国平均		0.98%		1.05%		1.03%		1.19%		1.33%

道府県と政令市の中でトップになっています。

繁忙期には 80 時間／月を超える時間外勤務

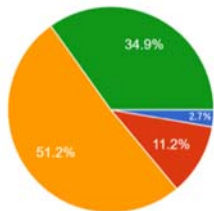
令和4年度、メンタルで1ヶ月以上休職に入られた先生が2.63%です。全国一位、全国平均の倍ぐらいの値になっています。堺の学校の先生はきわめて厳しい労働環境の中に置かれています。昨年度の時間外勤務をまとめた安全衛生委員会のデータです。年間平均では文科省が45時間以内と定めています。「意外と小学校は80%くらいラインに収まっている」「中学校はちょっと多いかな。中学校の方がやっぱり時間外が多いかな」と、そういうように見えてしまいます。年間で過労死ライン、月80時間超えというのは、全体で2%ぐらい、93名、そのうち89人が中学校です。中学校の先生は土日クラブをしますので時間外勤務が発生しやすい。しかしこれは、あくまでも年間平均です。夏休みとか、冬休みとか入れてこの状態です。

実際に忙しい時がどうなっているのかというと、今年の4月の先生の時間外勤務のデータでは、小学校の先生が文科省の定める45時間以内というのは半分くらい。中学校の先生に至っては40%しか収まっていません。月80時間以上残業している先生は、小学校では100名を超えていますし、中学校でも350名。堺市全体でもかなりの数、残業時間80時間超えというのは300名、400名近い。先生方の仕事というのは子どもたちのスケジュールに縛られますので、非常に偏りがあって忙しい時には本当にしんどい状態だと思います。



持ち帰り仕事は勤務時間資料に含まれていない

教職員の働き方実態調査



勤務の実態についてどのように感じますか。

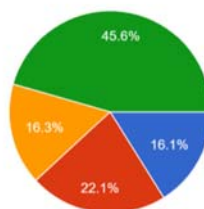
- ①余裕がある
- ②少し余裕がある
- ③あまり余裕はない
- ④全く余裕が無い

組合で調査しているアンケート結果です。余裕があると答えた人は2.7%。休憩時間(45分)はほぼ取れていない。労基法では45分取らないといけない。

「タブレットを持ち帰って家で仕事していますか?」という質問。去年くらいから先生は家にタブレットを持って

帰って、在宅ワークとかりモートワークとかができるようになりました。タブレット以外でも、学級通信も持って帰って書いている先生もいます。しかしこの時間は労働衛生委員会の時間外勤務の資料には含まれません。時間外勤務の資料というのは、

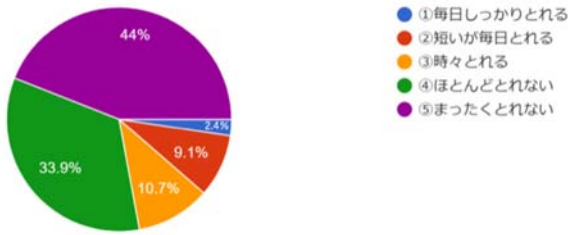
タブレットを持ち帰って、自宅で業務を行うことがありますか? (在宅勤務をのぞく)



- ①よくある
- ②時々ある
- ③あまり無い
- ④全く無い

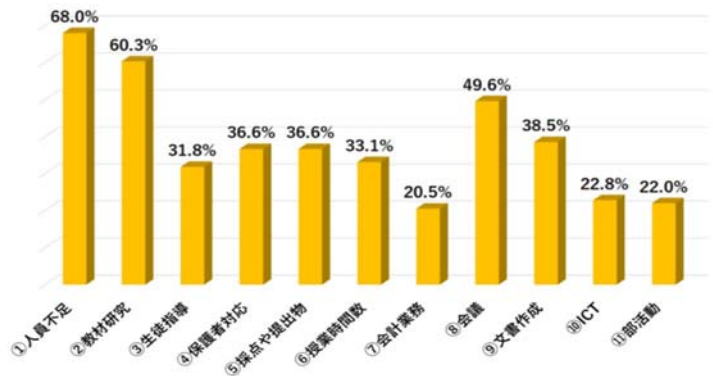
学校で始業時刻を打刻した分だけ記録しているので、家でやっている仕事というのは全然含まれていません。これはちょっとその先生も悪いと思いますけど、休みの日に出て仕事しても打刻をしていない人もいます。中学校の先生はクラブ活動があるので打刻していますが、小学校の先生は休日に仕事に出てきても打刻をしていない人が結構います。結局、時間外勤務の先ほどのデータがありましたけど、まだ実態としてはもっと働いている先生がいらっしゃいます。

休憩時間（45分）はとれていますか？



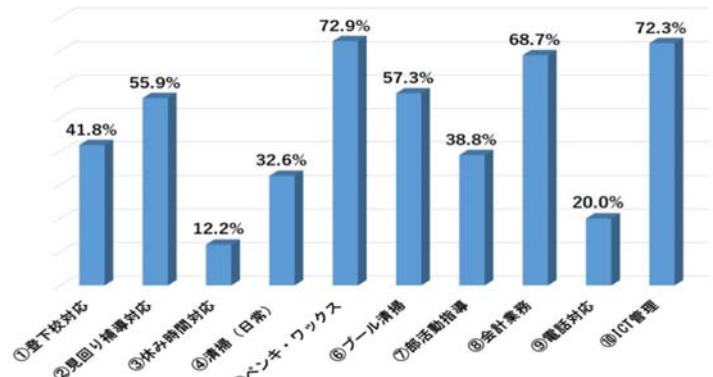
人出不足、減らしてほしいペンキ塗り・ワックスがけ

「余裕がないのは何が原因ですか」への回答のダントツ一位は人手不足です。次は教材研究、自分の授業の準備をするのに時間がありません。次が会議。あとは保護者対応や採点などいろいろなものが並んでいきます。先生方の感覚としてはやっぱり「人がいない。」「1人でこんなに仕事量はできない。」「定時なんかには帰れない」というのが正直な感覚です。1人当たりの仕事量を減らしてくれということです。



業務の中でまず何を減らして欲しいか？の質問には、「ペンキ塗り、ワックスがけ」が多かった。

先生が年に1回は学校のペンキ塗りとかワックスをかけ直したりしています。市役所の人に「市役所の職員の皆さんは当然ワックスがけ、自分でされていますよね。学校でもやっていますから」と聞いたことがあります。市役所でそんなことがあるわけがない。自分でペンキを塗り直す会社とか、ワックス掛けするところはないじゃないですか。でも先生は普通にそれをやっている。プールの掃除もやっている。



負担の重い ICT

今一番負担が大きいと言われているのは最近の ICT 化です。一人一台タブレット、故障したら先生が交換して、どこどこが故障しましたと報告をする。「これは別に教師がやらなくてもいい。子どもに直接関係ないから、他の人がやってくれてもいい」という業務がたくさんある。「それを減らしてくれたら、もっと子どもに対する仕事ができるのに、子どもに向き合うことができるのに」というのが現場の声です。

「現在小さい子どもが2人いる。休日は家族と過ごしたり、体を休めたりする時間が欲しい。家

族の時間を犠牲にして休日部活動しても 4 時間で 3600 円の手当だけで交通費も出ない。時給 900 円です。審判で一日拘束されても同じ値段。お金のためにやっているわけではないが、家族との貴重な時間をここまで馬鹿みたいに失いたくない。」「初任の時は何の疑いもなくこなしていたけど、時間とともにまたライフステージの変化とともに価値観が変わり、明らかにおかしい働き方をしていると感じました。」これは中学校の先生方の意見です。

次は小学校。「時間外労働が当たり前、なんとかならないか、百歩譲って残業で残るのは仕方ないとしても。8 時半から勤務時間なのに、子どもたちは 8 時前から登校しています。これでは勤務時間前から勤務始まっているのと同じじゃないですか」「校長面談で『早く帰りなさい』と言われる。どうしたら早く帰れるかって相談になりますが、結局は『早く帰りなさい』としか言われぬ。結論は人がいない」「主幹軽減講師が 4 月 23 日時点に来ていない。主幹教諭と教務主任です。非常に重たい仕事を掛け持ちしている。大変な仕事になっていても、あなたの負担軽減は来ないと言われた。」

仕事量が多いと、助け合うことができず孤立し病んでいく

病気休暇と超過勤務の相関関係は、あまりはっきりはしていません。メンタルで休む先生の要因で多いのがむしろ人間関係です。定期的にやるストレスチェックでは仕事量のリスクが非常に高い。業務が多いということは、結局他の人のサポートとかヘルプができなくなる。他の先生との関係も悪化するし、孤立しやすくなってしまう。助けてって言えない。しんどくても他の先生に助けを求められない。そういったところで病んでいく先生が多い。1 年目の方の意見ですが、「1 年目で分からないことが多すぎる。他の先生方は優しく質問しやすいが、忙しい手を止めるのが申し訳なく聞きづらい。授業力の向上も必要だが、それ以上に業務自体に慣れるための期間が欲しかった」

これがやっぱり今の若い先生方の感覚。人が足りないと、結局みんなで助け合うこともできない。しんどいこと、大変なことが起きたとしても、結局自分一人でやるしかない。そんな状況で心を病んで、現場からドロップアウトしてしまう。まさに人を増やしてもらわなければならないと思っています。



<報告>

不登校をどうとらえるか

井前 弘幸さん（大阪の教育を考える堺市民の会）



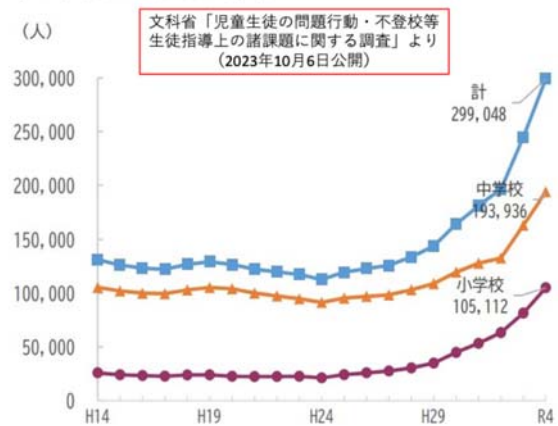
「大阪の教育を考える堺市民の会」とは皆さんには聞きなれない団体名ではないかと思います。2年前から、主に学習会を中心に色々の現場の声を集めてきました。今後、その中で出された問題を具体化していくために教育委員会への申し入れ等を行って、現場との話し合いの場を作っていきたいと考えています。堺市の市民、退職者中心にやれることをやっていこうということで始めています。

不登校 30 万人、長期欠席 50 万人

不登校の問題を取り上げ始めたきっかけは2023年10月に文科省が公開した資料です。新聞にも大きく取り上げられた小中学校合わせて299,000人。30万人という不登校の数です。この数は平成14年から横ばいで継続してきたものが、平成29年頃からぐっと一気に上がり始めています。この実態は何なんだということが大きく取り上げられました。これについて我々もちょっと考えたわけです。

先日8月2日に堺市総合教育会議で出された資料での堺市の現状です。堺市があまり上がっていないように見えていますが、平成30年から入っていますので、上がりが緩慢な感じがしますが、先ほどの全国的な上がり方と変わりません。縦軸が幅の関係でこういうふうに見えていますけれども、非常に大きく上向いているというのは、下の表を見ていただいても分かります。全国的な状況と堺市の状況はほとんど変わらない状況です。堺市も全国と同じように、この間一気に不登校の数が増

不登校児童生徒数の推移



不登校の現状

○小中学校における不登校児童生徒数の推移（堺市・全国）



小・中学校における長期欠席者数の推移



文科省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より (2023年10月6日公開)

えているということがはっきりわかります。

これは文科省の資料ですが、黄色いところで不登校が299,000人と。これ以外に、新型コロナに関する感染回避の不登校が非常に増えています。令和4年は一気に減っています。当然ですけれども、これがなくなってしまったので、なくなっていつているにも関わらず、学校に行けない全体の長期欠席者の数が増えている。左側の軸を見ていただいたら分かると思います。

30万人ではなくて、30日以上の欠席をしている長期欠席の子どもの数は実は50万人です。30万人ではありません。

原因が分からない子ども、「その他」

一つは、「病気」によって登校できない子どもたちが一気に増えています。「その他」も6万人増えています。原因が分からない子どもたちが増えているのです。大阪府教育委員会が類型分けをするためにマニュアルを作っていますが、生徒が30日を超える長期欠席に入ると、病気なのか、経済的理由か、新型コロナウイルス回避のための不登校なのか、「その他」については担当教員の裁量です。この統計資料は単なる統計やということで、実は私も自分がやっている時に強く反発感を感じることなく、自分の判断で原因がはっきりしない中で、「その他」という項目に入れることが増えていたり、あるいは「病気」としか考えられないから「病気」に分類してしまおうという子どもが一気に増えているのではないかと思います。

本人の責任として分類されている不登校の原因 専門機関につながらない子ども達

		小学校	中学校	合計
不登校児童生徒数(人)		105,112	193,936	299,048
学校要因	いじめを除く友人関係	6.6%	10.6%	9.2%
	学業不振	3.2%	5.8%	4.9%
	入学・転校・進級時の不 適応	1.8%	3.8%	3.1%
家庭要因	家庭環境の変化	3.2%	2.2%	2.6%
	親子関係	12.1%	4.9%	7.4%
本人要因	生活リズム乱れ・非行等	12.6%	10.7%	11.4%
	無気力・不安	50.9%	52.2%	51.8%
その他	項目に該当なし	4.9%	5.0%	5.0%

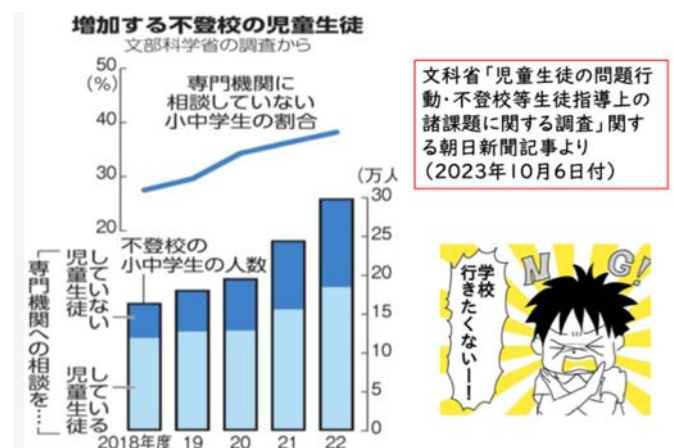
これが全体的な統計です。なぜ不登校になっているのかの原因を一覧表にしています。本人に係る状況は、不登校が子どもたち「本人の責任」として分類されているのが黄色です。6割を超える子どもが、学校を要因とする、あるいは家庭的状況を要因とするのではなく、「本人の責任」で不登校になっているとなっていますから、これを新聞社はどう受けとめたか。朝日新聞の即日のニュース報道です。そこで出されていた図はこれです。「増加する不登校児童生徒」。専門機関に相談できていない小中学生の割合が一気に増えていると。つまり、本人の事由によ

て不登校が起こっている中で、この子どもたちの話を聞ける専門機関に十分につながることができていない。問題は、学校の在り方がどうであるかとか、それぞれの状況がどうであるかということ、学校の中ではどうかということではなく、本人個人の責任の中で、専門機関とつながれないことが大きな原因だという報道です。

文科省：スクール・カウンセラー & スクール・ソーシャルワーカー増員と端末を使った「早期発見」と別学化

文科省とこども家庭庁の対策は、スクール・カウンセラーとスクール・ソーシャルワーカーを増やす、一人1台の端末を使って早期発見をするという、この2つが重点です。

児童生徒の学びの場を確保し、「学びたいと思った時に学べる環境」を整えるということで、それ



文科省調査を受けた「文科省+子ども家庭庁」による施策案

令和6年度概算要求で対応する取組

○課題の早期発見や支援のための教育相談支援体制の充実(90億円(前年度予算額82億円))※1, ※2は令和5年度予算額

	●スクールカウンセラーの配置充実 全山小中学校 27,500校(27,500校)	●スクールソーシャルワーカーの配置充実 全中学校区への配置 10,000中学校区(10,000中学校区)
重点配置	7,800校(7,200校)	10,000校(9,000校)
・1人1台端末整備	3,500校(2,900校)	4,800校(3,000校)
・異動対策	2,300校(2,300校)	3,500校(3,500校)
・業務支援	2,000校(2,000校)	2,500校(2,500校)
より課題を抱える学校の配置時間の充実	2,000校	2,000校
教育支援センターへの配置	250箇所(250箇所)	250箇所(250箇所)
オンラインを活用した広域的な支援	67箇所(67箇所)	67箇所(67箇所)
学びの多様化学校の配置	24箇所	24箇所
スーパーバイザーの配置	90人(90人)	90人(90人)

●24時間子供SOSダイヤル・子供のSOSを受け止めるための通話料無料の電話相談の実施

●SNS等を活用した相談事業・SNS等を活用した相談体制構築のための支援

○1人1台端末等を活用した「心の健康観察」の全国の学校での導入促進(6.4億円(新規))

●1人1台端末等を活用して、児童生徒の心や体調の変化を把握し、メンタルヘルスの悪化や児童生徒が発するSOSの早期発見につなげる「心の健康観察」の導入を推進 1,840箇所

を支援するための「学びの多様化学校」(別学である「不登校特例校」)を作って、そちらの方に行ける状態を作るべきではないかと。

校内教育支援センター、スペシャルサポートも設置。場としては重要だと思いますが、出てきた事柄に対してそれに対応するという受け皿としての対応、そしてSOSを見逃さない。早期発見が対策の基本になってくるという形で予算化されています。

問題点は、不登校が30万人、長期欠席50万人の文科省調査による主な要因は本人と家庭にあるとなってしまう。だから文科省は早期発見とその対策が必要だと。そして、全国の学校にスクール・カウンセラーやスクール・ソーシャルワーカー等専門家の配置と相談機関の拡充が必要だと。そして一人一台端末を使った子どもの心の状態観察。大阪市では毎日端末を使って、その日の「心の天気」を雷状態なのか、雨降っているのか、曇りなのか、晴れているのか等を入力することによって、それが毎日どんなふうに積み重なっているかというのをAIが解析して、この状態は危ない、早期に対応すべきだと教員側に対策を促す。また、子どものデータ連携。市町村が持っている子どもに関する個人データを学校教育委員会側と共有して、家庭の経済状況、保護者の状況、病歴等を含めた子どもデータを関連させて、学校を含む市役所関係の機関や専門機関等を含めて、「チーム学校」という形で対応しようという対応を入れています。

不登校特例校に切り離す

もう一つは「安心して学べる風土」というのがありますが、そのための環境整備として具体化されているのは「学びの多様化学校」(「不登校特例校」の名前を変えたもの)の整備が強調されています。子どもたちを、そこに切り離して、ここなら来れるだろうということで、別の学校に「居場所」をつくる。一般的な子どもの一時避難の場所も、まずあなたがここにもいいよ、安心できる居場所ということよりも、とにかく、「学びを保障する」ための場所を確保しようという、そういう流れになっています。

今の学校の在り方への問いかけ、当事者の思いがどこにもない

全体からあれ？って思うのが、学校が一言も出てこない。学校の今のあり方とか、その子どもたちが学校でどういうふうに過ごしているのか、何が原因で子どもたちは学校から自らを切り離そうとしているのかの問いかけはどこにもない。

子どもの心の状態は、何かちょっとしたきっかけだけで、「はい、分かりました」というものではなく、現場における教職員や保護者を含めて人間と人間同士の絡み合いの中でその子どもたちの状況が出てくるとは思います。それが完全に無視されていないだろうか。本当に当事者たちの言葉とか思いを伝えているのだろうか。私たちの会は、そうしたことをまず考えてみようという学習会を何度

文科省調査を受けた「文科省+子ども家庭庁」による施策案2

不登校対策COCOLOプラン関係 (122.2億円(86億円)※内数を除く)

- ①不登校の児童生徒全ての学びの場等を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整えます。
 - 学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)の設置促進 3億円(1億円)
 - 校内教育支援センター(スペシャルサポートルーム)の設置促進 5億円(新規)
 - 教育支援センターのオンライン体制・アウトリーチ機能の強化 8億円(新規)
 - 多様な学びの場、居場所の確保等
 - ・子どもの居場所づくりの支援体制強化(子ども家庭庁:3.7億円+事項要求(新規))含む
- ②心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援します。
 - 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見(再掲)
 - 「チーム学校」による早期支援を推進
 - ・子どもデータ連携実証事業(子ども家庭庁:3.5億円(新規))含む
 - 一人て悩みを抱えこまないよう保護者を支援
 - ・SC・SSWの配置(再掲)等
- ③学校の風土の「見える化」を通して、学校を「みんなが安心して学べる」場所にします。
 - 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善(子供たちの特性に合った柔軟な学びを実現)等
 - 快適で温かみのある学校としての環境整備

か取り組んできました。

作文教室を通じて書き手の子どもたちを理解する輪を広げていく実践

最初に勝村さんに来て頂きました。「作文教育を通じて仲間の教師たちと一緒にそして、教室で子どもたちと一緒に書き手の気持ちをより深く理解し、書き手は自分のことをみんなが理解してくれたことによって、それが力になって自信となり、また仲間を信頼する気持ちを育てていく。」これは新聞記者の書いた言葉です。そしてそれが、同心円的に子ども、教員、地域の住民に広がっていくという学習団づくり、これが大きな意味を持っているのではないかと提起されています。

勝村さんが出してくれたのが、このコウキ君という子どもの作文です。あまり書かない子だけれども、突然勝村さんのところに原稿用紙くれとやって来て、「学校すべてがめんどい。唯一楽しいのは体育、席替え、20分休憩、昼休み。行きたくないけど、行く。行きたくない日もある、行きたい時もある。本当に行きたくない。でも行ったら楽しみがある」。子どもが本音をあえて書かしてくれというふうに言ってきた。みんなに知ってほしいということ、あるいは先生に自分の気持ちはいつも「めんどい」って言っているけれども、こうなんだということ伝える。これを受け入れて欲しいと思っているのです。こういったことを通じて、その子どもの置かれている状況が分かるだろう。原点にすべきことはこちらの方ではないかと思うのです。

学校めんどくさい
6年 コウキ

学校はめんどくさい。勉強はめんどい。宿題はめんどい。書くのはめんどい。学校すべてがめんどい。あるくのもめんどい。ゆいづたのしいのは、席がえ、体育、20分休けい、昼休みだけ。学校めんどい。いきたくないけど、ぎむきよういくだから行く。そんな理由。本当は、いきたくない。でもいっただら楽しみがあるからいく。どっかといわれると答えられない。本当は、いきたくない日もある。いきたいときもある。学校は本当に意味がわからない。

しょうらいに関係ないことをならう。その時は、うっとおしいの思い。やる気がでない。でもみんながやっているからやる。

(じゃあなしてみたいなもん。)

みんなはそれぞれがうけど、おれは、毎日今は学校に行くのはめんどくさい。

市場化社会の評価の眼差しで子どもをコントロールする網の目にフリースクールも

第5回 2023年3月26日(堺市立梅文化会館)
お話 山下耕平さん(NPO法人フォロ副代表理事)
「不登校から考える学校・教育のいま」

「NPO法人フォロ」は、不登校の子どもを持つ親たちを中心に設立され、NPO法人(特定非営利活動法人)として運営されています。つまり、営利目的ではなく、行政サービスでも担いきれない活動を、市民が自分たちで責任をもって担っていく法人だということです。現在、**4つの活動「フリースクール、親のつながり、相談事業、なるにわ(18歳以上の居場所)」**を展開しています。

1966年では、長期欠席のうち「不登校(学校ざらい)」は2割程度。それが、だんだん「不登校」の割合が増えていって、近年は7割から8割に。これまでの「不登校」の枠組みでは捉えきれない**長期欠席の増加**。
フリースクール等は、学校外の育ちの場と言われたが、**市場化社会の「評価」のまなざしで子どもをコントロールしようとする網の目**は、学校の中だけでなくその外にも張り巡らされている。多様化の流れの中で、内と外を隔てる「壁」がなくなっても、「学校」からのがれられない。



次に NPO 法人、フリースクール、フォロの副代表をされている山下耕平さんに来ていただきました。「不登校」の枠組では捉えきれない長期欠席 50 万人を取り上げています。市場化社会の評価の眼差しで、子どもをコントロールしようとする網の目の中に、このフリースクールも取り込まれ始めているということ、すごく縛り付けられるような感覚を持っていると言われています。つまり、子どもがホッとできる居場所として何とか確保してきたフ

リースクールの中に、フリースクールでの生活を「評価」の対象として、学校教育の枠組みのなかに奪い返そうとしていると。山下さんらが作ってきたフリースクールの考え方とは違ったものを、文科省は、学校という評価の枠組みの中に奪い返そうとしている。非常に息苦しさを感じていると強調されていました。

フリースクールや新学校が増えているが、学校そのものは変わったのか

森下さんにも来て頂き、具体的な事例を出して、皆さんにとっては不登校引きこもり、元気に生きるってどういうことですかということ問い返され、そして、フリースクールや新学校が増えて、子どもたちはそこへ行くのがどんどん増えているけれども、学校そのものはどう変わったのでしょうかと問い返されました。

不登校のお子さんの当事者保護者の不安と恐れ

今日司会をされている塩野さんや丸山さんに不登校のお子さんの当事者としてお話をさせて頂きました。赤字の真ん中のところで、不登校、子どもの居場所、地域や校区の親の会、自己責任と冷たい視線。「学校に言いに行ったらモンスターペアレントって言われるのどちがうか」という不安。自分の子どものことについて本当は色んなことを言いたいけれども、言いに行くことによって孤立した状態になり、自己責任と冷たい視線で見られているのではないかと怖がりながら。教員と学校の連携をどうしたらいいのか。そもそも何が必要なのか、どうしたらいいのかについて、不登校当事者の保護者は悩んでいます。そんなことについてお話していただきました。

当日のオープニングにシンガーソングライターの遊人さんに来てもらいました。ご本人が6年間不登校。学校に行った12年間のうち、半分は不登校であった彼が「進め不登校」という応援歌を作って歌ってくれました。ネットで検索できますのでぜひ聞いてみてください。

第9回 2024年3月2日(堺市総合福祉会館)

お話 塩野直美さん 丸山久美子さん(不登校当事者・保護者)

塩野さんは、中学校1年生、小学校5年生と4歳のお母さん。丸山さんは、小学校6年生と2年生のお母さん。2人は、堺市北区の同じ校区にお住まいです。その中学校では、校区の小学校2校を包み込んで「不登校」の子どもの保護者と学校・教員をつなぐ会が立ち上げられています。

今回は「学校の困りごとから」をテーマにお二人のお話からきっかけをいただき、ご自身の経験と葛藤を通じて感じていること、学校や地域とのつながりなこと等をお話いただきました。それを基に、「不登校」「子どもの居場所」「地域や校区の親の会」「自己責任と冷たい視線」「教員・学校との連携」「そもそも学校って?」等について、ざっばらんに意見交換を行いました。

◆オープニング “遊人(ゆうと)”さん

作詞作曲した「進め!不登校」は、自身が経験した不登校の6年間と登校した6年間の歩みを振り返り、当時の担任の先生との共作という。『自分の人生の主人公に』をモットーに歌う尼崎市出身の応援歌特化型シンガーソングライター。



不登校当事者保護者が不安や悩みを共有できる場「ながおのえん」が長尾中学校区に

先ほどの2人のお話の時に、長尾中学校で、「ながおのえん」という保護者と教職員をつなぐ場が作られているという話をしていただきました。その中心になっている長尾中学校教諭の今西純司さんに来ていただいてお話を聞きました。赤のところを見てください。保護者が集まることができる場所を地域に設けること。これがすごく大事です。不安や悩みを共有できる環境を整えるというのは、こういうことではないかと。保護者が安心することで、家庭における子どもの生活環境を改善する。保護者が安心できなかつたら、子どもが安心できるわけがないので。子どもが安心できるためには、保護者がまず安心すること。この「ながおのえん」のきっかけは、保護者からの要望がきっかけだそうです。不登校になった当初はとても不安で、孤独でどうしたらいいかわからず、周辺の人に話しにくいです。気軽に話ができるコミュニティがあれば、それだけでも安心できると思います。これをなんとか作れないかという保護者からのお話があって、それを学校としてしっかり受け止めて、保護者と話し

特色のある不登校生徒支援の取り組み

「ながおのえん」(堺市立長尾中学校区)

①目的

- ・不登校児童や生徒の保護者が集まることができる場所を地域に設けることで、保護者が抱える不安や悩みを共有できる環境を整える。
 - ・保護者が安心することで、家庭における子どもの生活環境を改善する。
 - ・保護者と関係諸機関とのつながりが、これまで以上に進めやすくなる役割を果たす。
- ②設立までの経緯
- ・本校在学中の保護者から以下の提案があり、管理職に複数回相談があった。

保護者の方が集まって、今抱えている悩みや不安を言い合える場がないか考えています。不登校になった当初はとても不安で、孤独で、どうしたらいいかわからず、周辺の人にも話しにくい。さまざまなことを気軽に話しができるコミュニティがあれば、それだけでも安心できると思います。自分自身は、進学についての知識や、日々の家庭での生活をどのようにしているのか、経験した方から話を聞くことができるとも助かりました。

- ・提案を受け、生徒支援委員会、職員会議で決定。学校の窓口は生徒指導主事が担当、活動内容を管理職、養護教諭、支援教育コーディネーターを中心に協議。その内容を保護者とも話し合っ決定。
- ・PTA委員会でも報告。「堺版コミュニティ・スクール推進事業コーディネーター」を中心に活動し、PTAが支援することを決めた。

合って、「ながおのえん」を作ろうということが決定されたそうです。学校側からは、生徒指導担当教員、管理職、養護教諭、支援教育コーディネーターが入って協力し、そこに保護者も入っていただいて、「ながおのえん」を立ち上げたということです。

また、この取り組みには「堺版コミュニティスクール推進事業コーディネーター」という立場の方も中心になっています。この動きでPTAも支援を決めました。そして2023年4月に「ながおのえん」が立ち上がりました。その活動内容は、不登校で困っている保護者に「学校が勧められる場になる」ようにしていくこと。困っている保護者にとって、学校に行って相談したらいいねというふうに、学校が勧められるような場所になることをめざしています。そして、中学校区内の小学校に在籍している保護者の参加も認めようと。小・中の持ち上がりで、小学校段階から関係を作っていくことについても頭に入れよう、他校区の保護者の参加も認めようと。「教員の働き方改革」の流れとは逆行かもしれませんが、土曜日にも保護者が参加できる日を作ろう、児童生徒の意見を言える場を作りたい、こういう形でまとめられています。

また、ごく最近では、高石市の小学校内での教育支援員の仕事について、高石市の状況と堺市の状況ではどういうふうに違うのか、政令市との関係と大阪府と違いますので、その関係でのお話してもらいました。

学校群を中心としたマネジメント、GIGAスクールの推進

『広報さかい』6月号掲載の関教育長の右側です。私は、この発想が間違っていると思っています。つい先日の堺市総合教育会議のテーマは、不登校対策が一番トップ、そして教職員の働き方、総合的な学力の育成となっ

ていますが、その中心に学校群制度の制度改革が置かれています。

不登校の子どもの現状、教職員の働き方の現状から問題点について発想を逆転させて考えなければなりません。堺市は、進めようとする教育施策の土台に文科省が進める政策 GIGA スクールの推進を置き、学校群制度を真ん中に置いて、諸政策の予算化を進めるとしています。総合教育会議は、昨年の「不登校対策アクションプラン」を具体化させて、ものすごく分厚いものを出しています。

「広報さかい」（2024年6月号）より

● 子どもたちの未来のために ～Change&Challenge～

市では人口減少や超スマート社会の到来など、変化が激しく将来の予測が困難な社会を生きる子どもたちに、自ら考え、判断し、行動できる「未来を切り拓く力」を育むため、めざす姿と重点的に取り組む項目をまとめました。



「子どもたちの未来のために ～Change & Challenge～ に込めた思い

教育長 関 百合子

近年の学校教育に関わる動向などを踏まえ、学校群を中心としたマネジメントの仕組みやICTの機能・特性を最大限活用して、教育委員会と学校園が思いを一つにして意識・行動・学びを Change します。そして、未来を担う堺の子どもたちのための行動や取組に、果敢に Challenge します。

今後、子どもたちが多様性を認め、夢や目標、挑戦心や粘り強さをもって、それぞれの可能性を発揮しながら未来を切り拓く力を育むため、さまざまな取組を進めます。堺の教育に、ぜひご期待ください。



不登校児をスクリーニングし、別のところに連れ出す

まず「スクリーニング」。見つけ出す。「危ない子どもたち」を見つけ出し、対策のための多様な相談機会を設け状況の評価を行う。教育委員会と市長部局との連携のもとに「多様な」個別指導や支援できる教室等の施策をうたっていますが、学校の授業で一緒にいる中で子どもたち同士の関係とか、その様子ではなくて、別のところに連れ出した上で、そういう「居場所」の確保ができるかどうかというところから始まっています。やはり逆転された発想です。「箱物」対策をスタート地点にしてやろうという考え方そのものの発想の逆転が必要だと思います。

統合支援ネットワークの構築というふうに言われますが、hyper-QU というアンケート調査が切り札のように掲げられています。アンケートの結果をAIが分析して「要支援」の子どもをあぶり出すという施策ですが、本末転倒だと思います。

2-1 ICTを活用した多様な子どもへの対応 (不登校対策)



ICTを活用した「学び」や「気づき」のための効果的な活用実践

- ・小さな変化や予兆を把握するための各種アンケートの実施（生活アンケート、いじめアンケートなど）
- ・データを活用した状況把握（ICTを活用したそれぞれの子ども心身の状況把握）
- ・楽しい学校生活を送るためのhyper-QUによる学級状況の把握
- ・学びの機会を提供する授業動画の配信
- ・学習用教材の提供
- ・生活習慣の改善に向けた睡眠教育（みんいく）の実践
- ・データに基づく研修や、「気づき」や「未然防止」を意識した研修内容の充実

ICT機能の効果的な活用

規則正しい生活習慣構築のため、アプリを活用して、睡眠状況の把握
▶ICT機能を効果的に活用し、日常から子どもの状態を把握し、きめ細かな対応の実現

11

堺市の「不登校対策」重点施策の内容

【1】兆候を見逃さない、早期発見・対応策の推進

項目
(1) スクリーニング、アセスメントの推進
児童生徒の満足度や意欲、学級集団の状態を把握するアンケート「hyper-QU」の実施・分析 データを活用した遅刻欠席児童生徒の兆候把握
(2) 多様な相談機会の確保
教育相談体制の確保 スクールカウンセラーの配置
(3) 市長事務部局との連携強化
子ども・保護者・学校への情報提供（支援情報、地域資源等） ひとり親家庭 親と子のチャレンジ支援事業における家庭学習の支援 データを活用した遅刻欠席児童生徒の兆候把握【再掲】

不登校対策アクションプラン(案)より

ここに、「堺市不登校支援ネットワーク連絡協議会」の組織図を示しましたが、いくつかのフリースクールの関係者と校長代表と教育委員会で構成されています。ここには保護者が入っていません。

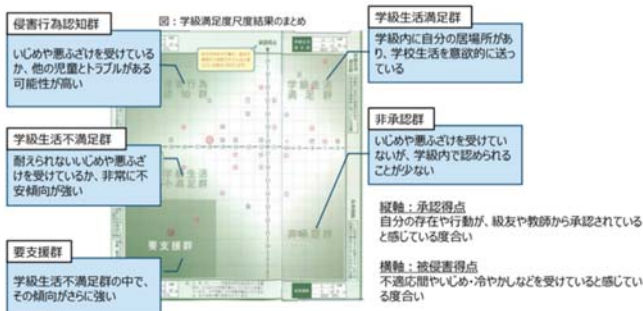
個別指導、支援できる教室というのは、学校の授業で一緒にいる中で子どもたちの授業実践とか、その様子ではなくて、別のところに連れ出した上でのそういう居場所というのを確保ができるかどうかというところから始まっています。やはり逆転された発想です。そして

箱物対策をスタート地点にしてやろうという全体が逆転の発想が必要だと思います。

主な取組 (hyper-QUの実施)



- hyper-QUとは、児童生徒の発達段階に応じた質問に回答することにより、学級に対する満足度、学校生活での意欲及び児童生徒のソーシャルスキルを測定するもの
- 不登校傾向やいじめ被害にあっていない児童生徒及び学級集団の状態をプロット図（下図）で把握することができる



8

主な取組 (堺市不登校支援ネットワーク連絡協議会)



堺市不登校支援ネットワーク連絡協議会

令和5年12月、フリースクール等と学校、教育委員会の連携を図るために設置

委員

- ・教育センター
- ・学校教育部
- ・堺市立小学校長代表
- ・堺市立中学校長代表
- ・フリースクール等関係者

構成

- 【参加したフリースクール団体】
- ・フリースクールころ（大阪市浪速区）
- ・お昼間の塾むなろ（堺市北区）
- ・きみの森（堺市南区）
- ・志塾フリースクールシーナ（堺市中区）
- ・八洲学園中等部（堺市西区）

議事・取組

- ・令和5・6年度に3回開催
- ・フリースクール等関係者から各施設の特長や活動内容について情報交換
- ・フリースクール等の情報を保護者や学校に提供する一覧の作成について協議
- ・7月に「堺市内のフリースクール等民間施設一覧」を作成・公表

10

堺版コミュニティ・スクール

最後に、堺版コミュニティスクール推進事業でコミュニティスクールコーディネーターを配置。堺市の「新しい学校のあり方」には3つ大枠が設けられています。「教育のICT化」と「学校マネジメント」(要するに学校群制度そのもの)、それから「コミュニティスクール」です。地域コミュニティをつくるのに、「堺版コミュニティスクール推進事業」というものにおいて、「地域コーディネーター」を全校に置きましょうと。先ほどの長尾でも地域コーディネーターの方が中心になったのですが、制度としてあるけれども、ほとんどの学校では動いていないという状態にあります。これをなんとかできないかということで、我々は教育委員会との話し合いの機会をもてないだろうかと考えています。

「地域コミュニティ」のあり方が学校群制度の中にあるけど、ほとんど話が進んでいない。教育委員会の事務局の教育政策課とお話を進めながら、現場の保護者の声を聞く場所を作ってくれということで、要望を出しています。一応、教育委員会は前向きに受け止めて、話を聞きましょうという機会を作るという約束をしていたので、そのことから始めていきます。



<早乙女さん、井前さん、両報告への感想、意見、質疑応答>

意見: 私の子どもちょうど中学校に入って、起立性障害でした。なまけではなく、成長期の女子に多いらしくて、医療的なケアとか伝えられる場所があったらいいなと思います。私のところは、斜視でして、1歳から定期的に防止センターで受けて、結局10歳の時に手術をして、もう一回成長期で戻っちゃうんで。20歳ぐらいにもう一回手術したりとか。それもちょっと発達のところだったりとか、ちょっとだけ学校に行き込んでなったりとか、そういうことが経緯としてありまして、そういうところも認識を共有できるような、一般の保護者が発信できるような場をもっとこういう、それを集約して、みんなで共有できるような場を今後作っていただきたいなと思います。ありがとうございます。

質問: 早乙女さんの報告での教員の志願者数の減少の原因と、市の対策について。

市長選で話題になった学校群が今、どうなっているのか。

早乙女誠さん

志願者数の減少は何が原因かと問われると僕も一教員として説明しにくいです。十数年前に受験を实际にした立場の僕から言うと、政令市の堺市は、大阪市や大阪府と比較すると、まず募集枠が少ない。大阪府とか大阪市であれば何千人とか何百人とかの募集枠ですが、堺は200とか300人です。今年で小学校が100人ぐらいの募集です。単純に受験者から見たら、やっぱり枠が小さいから受けにくいところがまずあります。これはどうしようもないハードの問題ですけれどもあります。

その時にプラス、枠は小さいけれど堺を受けたいなと思える何かがあるのかと言われたら、正直ない。堺出身の方で自分たちが生まれ育った堺で先生になりたいという方はたくさんいますけれど。

外から来られる方にとって、どこが堺の教員の魅力かと言われると、なかなかそれはないのかなと思います。

教育委員会もいろんな都道府県、他のところとか大学とかに広報活動を行っているというのは聞いてますけれども、実際に新しく入ってきた先生方がどこに堺の魅力を感じたのかと言われてたら、よそにはない、これというところがあんまりないのかなというのが正直今の現場の僕らの感覚です。

学校群ですが、今、学校群のモデル校が今年も増えて、モデル受施校の状況を何回もいろいろ我々も聞いています。働き方改革という意味では全くメリットはないです。どこの学校の先生方も学校群が入ってしんどくなったという声が寄せられても、楽になった、これはいいという声は一つも届いていません。だから我々は、学校群はこんなのやるんやったら人を増やしてほしいです。

井前弘幸さん

教育委員会議では一切審議されていません。教育委員の意見交換会では、この内容が議論されていますが、最大年3回開かれる市長も出席する総合教育会議の中でしか審議されていません。

先日8月2日に総合教育会議が行われ、不登校、教員の働き方改革、新しい学力、この3点に絞って議論されました。とにかく2025年度には全校区でスタートする。各学校群ごとの取り組みの内容については、パイロット校を除いて2025年からまず検討からスタートです。2026年度に進められるように、準備を進めようということになると思います。箱が先に来る形です。中身をどうするかということについては、ICT化については非常に進んでいます。次に学校経営の問題が2番目。そして、さっき言った地域コミュニティをどうするかということについては、ほとんど審議が進んでいない。これはお留守になっていませんかと質問したら、NOもYESも返答がない状況です。

ですから先ほどの地域コミュニティの問題で、地域の保護者とそれから学校というところを結んで、具体的にその保護者や、子どもたちからの要求をどう吸い上げていくのかということについて、それを作るべきじゃないかということを担当している教育政策課の担当者と話をしたら、それはそのとおりだと思うということで、保護者との話し合いの場を作ってくれる。前向きに進めたいと思います。我々は学校群に賛成しているわけではないけれども、そこをスタート地点にあらゆる改革について知ってほしいということで、地域コミュニティづくりも、担当者もそれぞれの学校でも決めているのであれば、その人たちを中核とするような、保護者の声を聞けるような場所を全中学校区に作るよう要望しています。

意見：地域が教育に手助けしなければならないということは、子ども会を長年やらせて頂いていて感じていることなんですけども、ボランティアの世話に先生方の労力や行政の労力が非常に大きく割かれているというジレンマがあると思います。だから、地域が学校のために何かやりますよと言う時には、先生方の負担が増えることは間違いなくあると実感として感じています。

意見：私は「トーキョーコーヒー」という活動を堺市でさせていただいています。登校拒否（トーキョーヒ）の文字遊びで作られた活動名です。生駒で2年前に活動が始まり、今は全国で400拠点あります。全国で学校を長期欠席する子どもたちのアクションを受けて、問題は子どもの不登校じゃなくて大人の無理解だということから、大人が教育に対する考え方を学んでアップデートしていくという活動です。400拠点あるうちのひとつとしてその活動を1年前に始めてから、色んな学校とつながり、現在は小学校2校のスクールサポーターとそれから中学校1校のスクールサポーター、そして小学校の放課後学童ののびのびルームでスタッフとして活動させていただいています。

先生たちから色んなお話を聞いての現状の悩みというのが、先生たちの人数の不足だと思うのです。インクルーシブ教育だとか、個性を一人一人という教育をしたいと思っはいるけれど、人が足りない状態で年度始めから始まる。それが最終的には年度終わりにはマイナス何人で毎度運営す

不登校、イテイ場所があるから大丈夫

TOKYOCOFFEE

トーキョーコーヒーとは
「トーキョーコーヒー」は、登校拒否のアナグラム（文字を入れ替えてつくる言葉遊び）。
全国で学校を長期欠席する約46万人の子どもたちのアクションを受け、
「問題は子どもの不登校ではなく、大人の無理解」という視点から教育を考へ学ぶ。
そして戦後から続く、子ども達を均質化する教育システムを塗り替え、
アップデートする為のムーブメント。
トーキョーコーヒーは世界一のための革命！

おとなが楽しめる活動の場
まずはおとなの悩みからの解放
本質的な教育について大人同士が対話し学び合う場

子ども
私もやってみたい！
子どもが主体的に学びだす
きっかけ作り

おとなの考え方がアップデート
いろんな考え方や多様な人がイテイ

トーキョーコーヒーが目指すこと

- ・全国に大人がイキイキ活動できて学び合える拠点を500ヶ所以上つくる
- ・全国の拠点では子ども達の個性が尊重され、安心して過ごせる
- ・みんなの活動を通して、学校教育を進化させる為に学校や地域、全てのおとな達が協力し合える関係を築くこと

堺市のトーキョーコーヒー拠点は
10箇所あるよ！
No.211堺市メグルカフェ(主:やよい)
tkcf_sakai_meguru_no211

トーキョーコーヒー公式 HP
<https://tkcf-tokyocoffee.com>
詳しくはこちらのQRから →

るような、そういう状態になっているというのが、どの学校にも共通してあるようです。特に子どもたちも、昔の教育とは違って、子どもたちからの暴言もあったり、先生の中では子どもにはそれぞれ背景があるので、その背景を理解した上で、すべてを受け止めようとしては下さっていらっしゃるんですけど、やっぱり人数が少ないところによる歪みもあるみたいには私には見えます。

先生って専門職なのに、学校を卒業していきなり一人前になるわけで、それが、今日学校現場に来てみたら、見習い期間とか特になく教員免許を持っているという状態で、最初から担任を持ち、何十人の子どもたちを持ちながら、そして保護者の対応まで、その先生一人にかかってくるというところに、私はしんどさがあると思います。

やはり先生同士で何か共有する大切さがもう一つ。学校現場を今まで見てこなかった、一般企業にいた私としては、もっと共有しあえばいいのと思います。先輩が後輩を教えるという制度も、年齢の分布図みたいなものがあるんだと思うんですけど。それがなかなか共有し合っていないような感じを受けます。

それが保護者と学校にも言えると思っています。私は今週ありました大阪府人権教育夏季研究会に行かせて頂きました。私たちトーキョーコーヒー代表の吉田田タカシが、この夏季研に特別講師として登壇させて頂いたのをきっかけに、この会を知ることになりました。分科会にも参加させて頂いて学んだのは、私たちが子どもの時に受けたような教育とは全く違う考え方で現場が動いている。私たちが新しい教育ってこんななんなんやと思っていたことが実際実践していらっしゃる先生たちの研究結果とかで発表とかも聞かせて頂いてすごく進んでいるなど感じた反面、この新しい教育といいますが、今までと違うものを保護者は一体どこで学ぶのかなというのを思いました。断片的に昔とは違うんだよということも教えてもらいながら、深く意味もわからずに、今の子どもたちと向き合っている保護者を思うと、保護者と学校と、それから地域が一緒になって学ぶ場がやっぱり必要なんじゃないかなと思っています。

今日の学習会はすごくためになると思いますし、私も去年は全く知らなかったもので、こういう会を持続していただいて、もっとできれば、もっとオープンに学校がハブになるような形で、先生が保護者に教えなきゃいけないってことは全くないんですけど、でも、地域がそこに入っていて、さっきあったチーム学校という言葉が、そういうふうになっていったらいいなと思っています。

意見：教員不足の問題です。堺市は教員の非正規率 18%から 20%で堺市は全国一位です。これからの改善の目途も全然立っていない、ぜひ改善をよろしくお願いします。

質問：さきほどの井前さんの報告の中で、不登校の兆候を、データを取ってスクリーニングするというのが私はすごいショックですが、それはもう始まっていることですか。

井前弘幸さん

モデル校で既に行なっています。それ以外でも、大阪全体で子どものデータを取っていくという

のは、箕面市も含めて行政と教育委員会が一体化してデータ化していくというものです。学力テストそのものをコンピューター化して、そこにアンケートが入っていますから、そのデータも AI 解析の中に入ってくるので、全体として非常に進んでいると思います。堺市の先ほど例示したものは、モデル校での実施がやられたと言う状態です。

質問：全国でモデル校を作って、その中に堺市もあるっていいですか。

堺市では独自に hyper-QU というのを全校生徒にやらせています。

<まとめの言葉>

早乙女誠さん

人不足の中で本当に子どもたちの声が聞こえなくなっています。ICT が入る中でも、私たち教員は子どもの顔を見て、子どもの声を直接聞いて、それで子どもに対してどういうアクションを起こすのか。本当にそういう教育をしたいと思っています。だからこそ本当に先生の数が必要で、一人の先生が見る子どもも、もっともっと少人数でいいんじゃないか。また色んなところで勉強して、色んなところでできることを少しずつやっていきたいなと思います。ありがとうございます。

井前弘幸さん

先ほど言われたように、地域から言っているだけでは、仕事がどんどん増えていくだけです。今、教育委員会、あるいは文科省サイドが進めようとしていることに対して、ちょっと発想を変えてくれ、現場の方の声をまず先に聞いてくれ、そして現場の中では保護者の声がほとんど組織的に採用されていない。そして現場の教職員の本当の声はどうかということ、やっぱり子どもたちはどんな顔をしているのか、どんな実践があるのか、それがまず第一に来ないといけないと思います。私も退職した教員ですが、子どもに関わって時間をすごくとられることは、疲れはするけれども、その分、後で子どもから返ってくるものの大きさをよく知っています。そのことが大事にされるのであれば、色んな苦勞はいとわなないという側面も強いです。しかし教員がやりたくないこととか、やっても意味がないと考えているようなものをやらされることの方はもっとしんどいです。それよりも話し合いの場をしっかりと保証してくれるということ、まずは言っていきたいと思います。



< 報告 >

国もダメ出し自動運転バス

淵上 猛志さん（堺市議会議員）

前回の市政チェック学習会で自動運転バスについて報告しました。簡単に振り返りますと、自動運転バスが駄目なのではない。自動運転バス技術そのものは、私は将来必要なものだと思っていますが、それを導入する路線が堺東駅と堺駅間のシャトルバス、都心の真ん中、堺市の中で最も本数の多い路線、ここに適用しようとしていることが問題だと。そもそも現行の大小路シャトルバスは誰も何も困っていません。今のままでも問題がありません。ところがその都心を走る本数の多い所に自動運転バスを導入しようすると、バスは大型となり、しかも7台も必要となります。大小路は交通量も多いですから、技術的難易度が上がり、導入に向けての実証実験も繰り返し行わなければなりません。なので時間もお金もかかる、だから駄目だというのが私の主張です。



それに対して永藤市長や維新は「これは東西交通の改善だ」と言ってきました。なるわけないです。堺東～堺駅の東西交通を自動運転に置き換えるだけで何も便利になりません。そして最後の最後、「未来への挑戦」「都市ブランドの確立」をめざすということになりました。

永藤市長肝いりの自動運転バス事業は今年度予算で7千数百万円ですが、国からの補助金をあてにしていました。全国で「99の自治体」と言いたいところですが、1つの市で2つずつ受託しているところがあるので「99の事業」にもらえる補助金を堺市の永藤市長肝いり事業には支給しないと決まりました。99事業がもらえる補助金を政令市がもらえないことは異常事態です。それだけ永藤市長が作った計画が無茶苦茶だということです。

なぜもらえなかったのか、当局は「国土交通省は2027年の自動運転バスの実装をめざしているが、堺市の目標が2030年だから遅過ぎる」と言っています。「遅過ぎ」って「未来への挑戦」じゃなかったのでしょうか。「国交省から、堺市の未来への挑戦は挑戦的ではないと、けっちゃんを食らった」というのが当局の認識です。半分は当たっていると思います。

実は私は半導体商社に8年勤めていました。その商社の事業も手広くなり、総代理店を務めるフランスのナビヤが今日本で一番実績のある自動運転バスです。その総代理店責任者が、私が新人で入社した時の隣の席の先輩です。堺市よりも余程国交省に入り込んでいます。関係者が言うには「それはあかんわ。堺市の補助金申請のタイトルが『公共交通確保維持推進事業補助金』で、カッコ付でしか自動運転バスと書かれていない。堺市で一番運行本数が多くて、将来一番最後まで公共交通として残るであろう大小路のバス路線に『公共交通確保』を適用してどうするんだ。堺市で公共交通として確保維持できなくなりそうな路線がどれだけあるのか」と。堺市が補助金を貰えなかったのは当然です。

他にも問題があります。7月8日午前中に国交省の補助金却下の報告が我々議会にあり、その日すぐ報道が流れました。ところが国交省から堺市に補助金却下の連絡があったのは6月6日。1ヶ月以上経っています。当局は遅れた理由を「なぜ駄目なのか国交省からの連絡時点では分からなかったから」だと。しかし国交省は、なぜかは言えないということで、結局1ヶ月堺市が調査しても不明です。子どもの使いのようですね。

実は国交省から堺市に却下の連絡があった翌日は市議会建設委員会が開かれていたのです。私が会社にいたとき「悪い報告はすぐあげろ」と上司から教えられていましたが、もし6月6日に国交

省から連絡が来てすぐに議会に「すみません、議会であそこまでごり押しした案件が駄目になりました」という報告を当局がしていたら、翌日の建設委員会では緊急質問が飛び交って時間延長していたでしょう。私は1ヶ月隠していたと思えてなりません。

もう一つ解せないのは、国交省に補助金申請が蹴られたのは所詮7千数百万円だけ。皆さんや私にとれば大きな額です。しかし永藤市長があれだけお金にけちけちして200億円以上基金に溜め込んでいます。本当に挑戦したいのであれば、基金を崩して堂々と補正予算を提出して、どうか通してくれと議会を説得し議論すればいいのです。それもしない、あれだけ議会でごり押ししておいて、国交省からお金がもらえないからと今年度の自動運転実証実験はやらない。本当にやる気があるのか、所詮そんなものかと、今回の議会対応で痛切に感じます。永藤市長は、何やら来年度に補助金がもらえるように頑張るって言っています。今年、補助金申請で堺市のはスケジュール感で遅いと言われたのに、1年遅れでどうやって巻き返すのか、私はよく分かりません。当局は何とかすると言っています。(笑、拍手)。

クエスチョンタイム：各市議に聞く

質問：学校群についてどういうふうに考えているのでしょうか

回答：森田晃一議員

先ほど先生方が報告されていたように、子どもたちの意見が中心になっていないと常々思っています。不登校の問題も学校群の問題もそうです。

学校群制度という、学校の仕組みをいじくり回すというようなやり方ではなく、やはり今本当に目の前で困っている子どもたちをどうやってその子どもたちに寄り添ってやっていくのかということをもとにやらないといけません。

そのためには先ほどの報告のように、学校の先生方が不足している問題を真剣に捉えて教育委員会全体で本当に尽力して頂かなければ問題解決にならないと思っています。不登校の問題も学校の仕組みをいじったり、あるいはGIGAスクール、ICTを入れ込んでどうのこうのというようなことではなくて、本当に生身の人間がしっかりとぶつかり合って、向き合っていけるような環境を作らないと改善しないと思います。

先ほどのこうきくんっていう子どもの作文がありましたけど、私も子どもの頃ずっとそう思いながら学校に通ってました。本当に、「この授業、何の意味があんねん」というふうに思っていました。やはり子どもたち自身が、本当に自分たちにとって夢中になれるようなことができる学校を作っていないと、不登校というものも改善していかないと思っています。学校群ありきではないやり方が今本当に求められていると私は思っています。

回答：淵上猛志議員

学校群はとてつもない罪悪をもたらすものです。しかし率直に言いますと、当初想定していたほどの害悪をもたらすものではなくてきているなとも思っています。

最初はハードを統合してお金を節約する、3校でプール1個とか、子どもらが移動するとか、無茶無茶な話でしたが、教育委員会の事務局の職員も、一部の上の方の人を除いてそれは分かっている、今そんなことをやろうとする人はほとんどいません。プールの1校にするなんて絶対にならないでしょう。私にも「それは言わないで下さい」「分かるでしょう」とか。



しかし永藤市長がいる限りは揚げた旗を下ろせない。来年度からは学校群を全校で実施と決まっています。そこで何でもいから学校群っぽいことをやる。私は「何でも学校群」と呼んでいます。例えば中学校と小学校で会議したら学校群、一緒に遠足行ったら学校群、一緒に講演聞いたら学校群。そんな感じで、賢い校長先生方はお茶を濁していくと思います。

しかしその真面目な先生方が「いや何しよう、何しよう、何かせなあかんねん」と3、4校が集まって会議をしなければならない負担があるはずです。ではあるけれども、当初のような無茶苦茶な話ではなくなってきたとは認識しています。

回答：藤本幸子議員



学校群について、モデル校で既に実施している現場の先生からお話を聞くと「中学校とその学区の小学校で合同でオンライン会議をするという業務が一つ増えた」と言われていました。やはり新たな業務ができれば先生の負担はどう考えても増えます。学校群のための会議の必要が本当にあるのか。子どもたちや学校、先生に良くなる部分はないのではないかと。やると決められると皆で学校群の仕事を探さないといけない。その負担を考えるだけでも学校群は止めた方がいいと思います。

(追記：9月12日の決算総括質疑で学校群について確認したところ、モデル実施への教育委員会の振り返りとして「複数の学校をチームとして捉えることで他の学校の教職員と相談しやすい環境ができた」「気軽に相談できる選択肢が増えることは、学校で働く上で安心感に繋がる」との言及がありました。ただ、振り返りの資料にある教員の感想でも「仕事量の増加を感じる」とあり、連携の良さは活かしつつも「負担となるならやるべきではない」と指摘しました。教育委員会から「今後の進め方について、全市一律ではなく各学校の状況を踏まえて行う」と答弁がありましたが、引き続き現場の状況を注視していくことが必要です。)

質問：教員不足についてどう思いますか

回答：藤本幸子議員

先生が本当に不足し、すごく大変な状況で、新しい先生を何とか採用しようと努力しても増えないというのが今の現状です。堺市教委と話をすると「今後、子どもが減っていくのですよ」と言うのです。それに合わせて先生の採用を今までセーブしてきた、その積み重ねが今のこんな大変な現状を作っています。やはり今は将来的なことも考えたとしても、もっともっと先生を増やしてほしいと思っています。

回答：林原徹議員

保育園の現場も同じです。子どもを取りまく環境は、子どもを大事に考えなければならないと同時に、先生の働き方、保育士さんの働き方も同時に考えていかなければなりません。

学校群も、モデル校では複数の小学校を先生が動き回っていくことが実施されていて、今後も徐々に他の学校でも広がっていくかもしれません。早乙女さんのお話しにもあったように、今でも大きい先生の負担が、ますます増えてきます。

また先生方が働いた分だけ残業代がもらえるようにはなっていないというのは一番の根本の問題です。私は以前、いずみ市民生協で27年間働きましたが、働き出した当初は私も、残業代働いた分だけもらえないというブラック状態でしたが、時代と共に変わってきて、今は「サービス残業は違法」というのが企業では当たり前のことです。学校現場では未だにサービス残業当たり前で、先生の熱意やその善意で支えられているというのが大きな問題です。こうしたことも教員不足を解決するために改善していかなければと思います。

回答：森田晃一議員

児童・生徒は少子化で減少する中で、支援を必要とする子どもたちは増えている中で、そこにエネルギーをさく教員の不足は深刻だと思います。その改善を強く求めたいです。

質問：周辺歩道の道路側は柵があるけれども、住宅などの深い溝があるところに柵がないので、夜は怖い。蓋などしてほしい。これはご質問ではなくてご要望です。

回答：藤本幸子議員

私たち議員のところにはこうした地域の要望がたくさん寄せられます。それを受け取ったら、それぞれの地域整備事務所に伝えて、何かできないかと一緒に取り組むことも議員の仕事の一つです。地域で起こっていることは地域の皆さんしか分かりませんので「ここは危ないんじゃないか」ということもぜひ議員の方にお伝えいただけたいと思います。

できること、できないことがあります。泉北地域では今、「樹木が大きく茂っていて切ってほしい」という要望がありますし、他方では「せっかくの緑を切らないでほしい」という要望もあります。私もむやみな伐採には反対です。しかし南区では樹木が茂り過ぎて、葉や枝が落ちてくるとか、倒木の危険や、街頭にかぶさり暗くなっているなどの理由からの剪定の要望があるのです。切るにしても地域整備事務所を伝えますと、「ここは危険度が高いのですぐ切れます」「ここはちょっと待ってもらわないといけない」と優先順位があり、ご要望にすぐに応えるのが難しい場合もありますが、伝えていただけたら私たちも助かります。

質問：金岡公園プールは今年の営業がなく、我が家は不登校児がいて、学校プールの代わりに金岡公園プールに毎年通っていたので非常に困りました。老朽化はコロナで閉鎖していた時から分かっていたことで派手な設備は必要ないので、市民が利用しやすい市民プールの営業を辞めないでほしい。

回答：林原徹議員

金岡公園の中に、50m や 25m プール、本格的なプールから幼児用まで兼ね備えたプールだったのですが、長年の老朽化で使えなくなり、今年は幼児用のビニールの大きめのプールを事業者に頼んで運営する予定だったのですが、それも事業者が辞退されて、結局全面的に使えないということになりました。

「来年度のプールの再開はどうなんだ」と堺市に聞いたところ、金岡公園全体の再整備の計画があり、その計画に伴ってプールを再開するかどうかというのも決めるということで、再開するとも、失くすとも決まっていない状況になっています。

老人福祉センターの入浴施設が今年度末で全部廃止になることに市民から反対の声が上がっています。堺市の公共施設が老朽化に伴って削られていっているが実情です。今回頂いたご意見をしっかりと議会でも要求し、大きな運動としてプール存続を要求していきます。



質問：IR カジノの前座の夢洲万博への児童強制動員、遠足について、校長の一存で不参加を表明したら、その校長はどのような仕打ちを誰から受けるのかお答えください。

回答：森田晃一議員 仕打ちはありません。「行かない」と決断してほしいというのが私の思いです。

質問：夢洲万博への遠足で、児童に何か不具合や事故があったら責任は誰が負いますか。

回答：森田晃一議員

大綱質疑で私が前教育長に問うた時は「教育委員会と校が責任を負う」と言っていました。

質問：地域で居場所づくりをしている子ども食堂などに対する支援のあり方に疑問を感じます。そ

うした活動を居場所作りの当事者からの聞き取りや支援のあり方について検討してもらいたいです。

回答：森田晃一議員

子ども食堂支援の仕方を私たちもこの間色々求めてきました。堺市がやっているのは開設補助金だけです。しかも財源は寄付に頼っています。それも問題です。一般財源もやはり入れるべきです。

食材については、いろいろフードバンク、フードドライブという取り組みも導入されていますが、子ども食堂をされている現場の方々に一番何が困っているかを聞き取りを行うと、続けていく運営費が足りない、やりたくても続けられないということが出されます。食堂を開設する都度に運営補助金を出している自治体があります。堺市でもそうすべきと私たちも要望しています。引き続き、子ども食堂、子ども居場所作りに取り組んでいきます。

質問：今回のテーマは教育が中心ですが、昨年施行された子ども基本法は、子どもの意見が反映されていますが、堺市では教育の中に子どもの意見を取り入れる動きはあるのでしょうか。

回答：淵上猛志議員

残念ながらほとんどありません。めちゃくちゃ堺市の対応は遅いです。

とはいえ子どもの意見表明権について、私も議会で何度も何度もやっていますが、その相手は一義的には子ども青少年局です。子ども青少年局はようやくちょっとずつ変わってきました。教育委員会はもう1周遅れくらいじゃないですかね。



例えば今年は「子ども大綱」が作り替えられる更新の時期ですが、私は今「子育て会議」をやって「子ども大綱」をチェックしているんですが、確かに意見表明権がトップタイトルに近いぐらいのところに上がってくるようになりましたし、子ども青少年局は今、自分らの事業の中で子どもの意見表明権が守られない行政事務がないかというのを全てチェックするだけでなく、他の部局に対してもその確認を働きかけています。しかし、他部局から「それはどういう意味か分からない」という回答が来て、一々教えている最中です。例えば、建設局が公園で遊具選定する時に、そこで遊んでいる子どもの意見を聞いていますか、あるいは通学路を補修する時に、通学児童からどこが危ないと思うか、どこがボロボロで困っているか聞いてますか、教育委員会では、校則変えるときに子どもの意見を聞いていますか、と。校長先生が聞いているケースがありますが、教育委員会全体としては、まだまだ鈍いかなと思っています。体罰問題はもうここに尽きるかなと思っています。

子どもの権利条約、子どもの権利、そこに寄り添って、子どもを一人の人間としてちゃんと認めて尊重しているかということに私は尽きるのではないかなと思っています。けれども、昨年度末に堺市職員による不祥事がたび重なっているので、「それを根絶するために作りました」というマニュアルのようなものがドーンと出て来ましたが、子どもの権利って一切書いていません。「堺市に対するプライドを持ちましょう」みたいな。それも大事かもしれませんが、私は子どもの権利条約の理念に基づき、堺市子どもの権利条例が絶対必要で、それが根幹になると思っています。

行政職員の方々はすごく真面目な方でそこは信頼しています。だからこそきちんと子どもの権利条例を制定してルール化すれば、皆さん意識してくれると私は信じています。条例化する動きを加速させたいな、議員としてもっと訴えたいかなと思っています。

<市民運動報告と交流>

中学校教科書採択に向けた取り組み

村上 寿美子さん (コオロギの会)

8月16日の教育委員会については井前さんのレポートに詳しく書かれていますので見てください。堺市においては侵略戦争を肯定する育鵬社、自由社、令和書籍の教科書は採択されませんでした。しかし自由社の教科書については、堺市に関する記述を4ページも取り上げていると、高く評価する教育委員の発言がありました。多くの皆さんが、展示会場に足を運び意見書を出していただいた結果、3社の反動的教科書の採択を阻止することが出来たと私は思っています。ありがとうございました。



次に私たちの取り組みについて述べます。私たちは、現在の政治的背景から教科書の採択に危機感を抱き、教科書展示会場を増やす取り組みから始めました。市議会での陳情や陳述を行なった結果、展示会場を2カ所にすることができました。そして学習会を準備し、準備会として学習会への参加と展示会場に行き意見を書くことを呼びかけました。学習会には39人が参加し、活発な論議が行われました。さらに堺の戦争展で、令和書籍の不合格本教科書を展示し、今回検定合格した教科書とほぼ同じであること等も紹介しました。

採択の結果は先に述べたとおりで一応ほっとしました。しかし、今回の教育委員会の内容は堺市の教科書採択ではじめて反動的教科書を賛美する意見が堂々と出されたことや「神話」の取り扱いを重視する発言、「領土」の扱いを問う質問、さらには堺市における学習課題と指導要領との関係での有効性を問う質問は、今後の動向を示唆するものと思われまます。堺市でも確実に政府見解を意識しているさまが見受けられ、それは全ての教科書の内容が反動化するものと思わなければなりません。「領土」については既に全ての教科書が政府見解を記述しています。このことを多くの人に知ってもらい、よりいっそう批判を強くする必要があります。

もう一つ、令和書籍の教科書「国史」ですが、皆さん「こんなとんでもない教科書がなぜ検定に合格したのか？」と聞いていませんか。このような教科書が合格したということは、政府がこのとんでもない歴史観を認めたのであり、他の教科書にも同様なことが書かれるようになるかもしれないのです。そんなことは絶対許してはなりません。採択の結果に安心するのではなく、これからも地道に学習し草の根の運動を続けていきたいと思っています。ともに頑張りましょう。

(資料) 堺市教育委員会会議 2024.8.16 2025年度中学校使用教科書採択報告

2024年堺市教育委員会第10回定例会(10:00~17:00)

内、来年度中学校教科書選定議案審議(10:40~16:00)

報告・文責 井前弘幸

作成 2024年8月17日

傍聴者 38名 (うち教科書出版社等 14名くらい)

会場制限は 105名 9時50分受付締切・抽選(結果的に抽選なし)(昨年の小学校採択では、傍聴座席は75名)

3種目の結果

歴史：東京書籍

公民：日本文教出版

道徳：光村図書

(経過)

5月20日 第1回選定委員会

5月29日 選定委員会・調査委員会合同会議(87名)

7月8日 第2回選定委員会

7月10日 第3回選定委員会

* 教科書展示会に関わる 市民意見書・アンケート 191通(昨年の小学校採択33通)

主に、歴史、公民、道徳 他に、国語、音楽等

* 団体・個人による意見書(8月16日当日まで受付)

選定委員長よりの口頭報告 948通(内、大町さん呼びかけの市民要請書が751通)

参考:昨年の小学校採択時は、全部で153通

(参加教育委員) 関教育長、河盛委員、宮本委員、長田委員

(欠席) 鈴木委員、新谷委員 鈴木・新谷委員は、昨年の度小学校採択の際も欠席

(報告及び審議)

① 種目毎に選定副委員長より、調査・選定の観点と調査の概要説明(ここでは、各社教科書の特徴点を一様に報告)

② 教委委員から選定委員会への質問(おそらく事前に準備、予定された質問)

←最終7月10日の選定委員会後すぐに「答申」は出されているはず。教育委員は、この後、3週間余りで複数回にわたり「教育委員意見交換会」を開いている。(非公開:事後的にその意見交換の概要を情報公開・情報提供により確認はできる。)

←堺市は選定委員会を非公開で行い、その議事録や答申も採択作業をすべて終了した後でないと一切公開しない。それはおそらく、選定委員会答申から採択会議までの間に、主要な選定委員と教育委員、教委事務局との間で非公開の「調整」をはかっているからだと考えられる。

⇒ そして、採択会議当日に、選定副委員長がよどみなく委員からの質問に回答(その際、優れていると選定が判断した項目毎に出版社名を明示)

(以下の表に、選定委が優れている点を挙げた出版社毎の回数を集計した。)

③ 出席教育委員各自がどの発行者を採択するか意見として表明

④ 教育長が委員の意見を受けて、採択する発行者の案を提示

⑤ 採択(結果として、出席委員の全員一致の形で、全種目とも採択となった。)

⑥ 教育委員からの「質問」の特徴

* 各種目とも、委員質問で「指導要領に明示された目標に照らした選定委の評価」「堺市における課題(学テの結果等から堺市として重点的に取り組むべき)にのっての有効性」「堺市に関する記述」が必ず、委員の「誰かが」持ち回りで質問。そして、「人権尊重の観点からの評価」も必ず、誰かが質問。

上記のやり方は、昨年の小学校採択から行っている。これまでの堺市教委の慣例は、ほぼ明示的に選定委員会推薦のように選定委員会の意向を明らかにする方式をとっていたが、それを行わず、教育委員からの質問内容に即して「優れている発行者名」をあげていく形式をとっている。

* しかし、今回特に目立ったのが、歴史教科書における、長田委員からの指導要領の観点からと条件を付けたが「神話」の取り扱いを重視する、またエルトゥール号遭難事件の扱って

ることを重視する発言を行い、河盛委員が堺市を4ページも取り上げていると「自由社」を高く評価する発言を行った。また、両委員は、地理、歴史、公民の3教科において、「領土」の扱いが優れているかを質問した。これに対し、宮本委員が主に、人権重視の観点、主権者教育に役立つかの観点を重視した発言が目立った。関教育長は、主に、堺市における学習課題と指導要領との関係での有効性を問うた。

* 道徳では、光村の「学習ユニット」と「学びプラス」を評価していた。

2025年度使用中学校教科書採択会議 委員質問に対する選定委答弁（高評価事項の数）									
(2024年度堺市教育委員会会議第10回定例会 2024.8.16)									
種目	発行者数	発行者	選定委	採択結果	種目	発行者数	発行者	選定委	採択結果
国語	4	東書	3	光村	理科	5	東書	4	啓林
		三省堂	3				大図	2	
		教出	5				学図	3	
		光村	8				教出	3	
書写	4	東書	2	光村	音楽一般	2	教出	5	教芸
		三省堂	3				教芸	8	
		教出	2		音楽器楽	2	教出	2	教芸
		光村	8				教芸	4	
地理	4	東書	5	日文	美術	3	開隆	7	開隆
		教出	5				光村	5	
		帝国	5				日文	4	
		日文	6						
歴史	9	東書	8	東書	保健体育	4	東書	8	東書
		教出	4				大日	1	
		帝国	6				大修館	2	
		山川	0				学研	4	
		日文	7		技術家庭(技術)	3	東書	6	東書
		自由	5				教図	3	
		育鵬	4				開隆	3	
		学び舎	2		技術家庭(家庭)	3	東書	3	教図
		令和	2				教図	6	
公民	6	東書	8	日文	英語	6	東書	7	東書
		教出	5				開隆	1	
		帝国	6				三省	3	
		日文	10				教出	1	
		自由	1				光村	3	
		育鵬	3				啓林	2	
地図	2	東書	3	帝国			東書	4	
		帝国	5				教出	3	
数学	7	東書	5	教出	道徳	7	光村	7	光村
		大図	4				日文	5	
		学図	3				学研	3	
		教出	8				あかつき	2	
		啓林	1				日科	1	
		数研	1						
		日文	2						

10/27 堺区図書館をつくろうシンポジウム

松永 直子さん（堺区図書館をつくる会）

図書館のことについて 皆さんに考えていただきたいと思います。今日は教育の集まりですけれども、教育と言ったら、つい学校教育ばかりを思い浮かべますけれども、図書館というのも市民の教育、お友達の教育にとっても大切なことで、また学校図書館を含めて非常に大切なことですので、教育ということを考えた時にどうぞ、考える枠の中に入れていただきたいと思います。



堺市には中央図書館があり、そして東西南北等の各区に中区図書館とか北区図書館がありますが、堺区図書館というのはいないんです。

それはなぜかと言ったら、堺市の中央図書館が堺区にあるから、そこに行ったたらいいでしょう、維新の方々が好きそうな無駄をなくすということではいいのかもしれませんが、区の図書館は区の図書館として、中央図書館とは別の機能があるんじゃないでしょうか。

中央図書館がどこにあるかは皆さんご存知ですよ。堺区民の多くの方々にとっては、ものすごい遙か彼方の大仙公園にあるんですよ。市役所からも遠いです。

中央図書館を建て替えるという方針が堺市の文教委員会で話されています。その時に、堺区は堺

区の図書館を作りましょう。中央図書館は中央図書館として建て替えましょうということが、話題に出ているそうですけれども、このことはぜひ市民の声として充実させていきたいと思っています。便利なところに、みんなが行きやすいところに、そしてもちろん内容も充実したものとして、市民の声を反映させた図書館を作ってほしいというのが私たちの要望です。

そのシンポジウムを今度10月27日に開きますので、ぜひ皆さん方、多くの方が来てくださって、この会を成功させたいと思っておりますので、日頃図書館のことなんかは自分の生活には関係ないと思っていらっしゃる方もですね。そんなことないんですから、図書館というのは非常にね、私たちが暮らしに身近なものであるべきだと思いますので。この機会に、このシンポジウムにも、ぜひ足を運んでくださるように、よろしく願います。ありがとうございました。

＼これからの図書館をみんなで考えよう／

堺区図書館をつくろう！ シンポジウム

参加費 500円
定員144名

2024年 10月27日 日

13:30 | 16:30

堺市総合福祉会館 5階大研修室

〒590-0078 堺市堺区南瓦町2-1
南海高野線「新築」駅より徒歩10分

駐車場・駐輪場が狭いため、電車・バスをご利用下さい

講 演
松本大学図書館長
元堺民市市民交流センター長
元堺民市立図書館長
いとうなおと
伊東直登さん

「まちと生きる図書館」
地域と連携した図書館づくりや世界中の図書館を高った経験を活かし、これからの図書館づくりについて語っていただきます

パネルディスカッション
「みんなでつくろう
堺区図書館」

<パネラー>
伊東 直登さん（松本大学図書館長）
小林加奈子さん（NPO法人モモの木スタッフ）
松永 直子さん（元堺民市立図書館長・堺区図書館をつくる会代表）

<コーディネーター>
興 潤子さん（日本図書館協会理事・堺の図書館を考える会）

13:15 開場
13:30 主催者挨拶、講師紹介
13:40 伊東直登さん 講演
15:00 質疑
15:20 休憩
15:25 パネルディスカッション
16:25 閉会の挨拶

主催 堺区図書館をつくる会 共催 堺市の図書館を考える会、学びを広げる学校図書館の会・堺
問い合わせ先 興 潤子宛 ☎ hotaru3838@fower.zaq.jp ☎ 090-7764-5386

6/30『夢みる校長先生』上映会報告

河端紀子さん（『夢みる校長先生』上映実行委員会）

大人 300 名、子ども 42 名が来場され、上映後、感想を出し合うシェア会には午前 47 名、午後 33 名と、前回 12 月『夢みる小学校』来場数よりも増え大成功となりました。改めてお礼申し上げます。



今回事前のプロモーション活動を報告の通り、現役保護者と教育関係者が集まるイベントを中心に働きかけを行いました。子ども会連絡協議会南区支部長にも参加して頂きました。今後の課題として、現役の教員の方の参加がほとんどないということを非常に悔やんでいます。今後、日程、内容、告知方法なども検討していきます。

『夢みる校長先生』上映実行委員会 報告-1

2024/06/30(日) ビッグアイ大研修室
10時～、14時～
『夢みる校長先生』上映会と感想シェア会

大人：300名、子ども：42名
シェア会 午前47+午後33



ご招待

- ・ 堺市教育委員会より
 - ・ 次長
 - ・ 学校教育部理事
 - ・ 指導主事など
- ・ 堺市立学校 学校長/教頭
 - ・ 中 区：深阪小学校
 - ・ 東 区：堂島丘小学校
 - ・ 西 区：浜寺小学校
 - ・ 南 区：三原台小学校
 - ・ 新物尾台小学校
 - ・ 北 区：孟岡小学校
 - ・ 五箇丘東小学校
 - ・ 新玉岡小学校
 - ・ 西白鳥小学校
 - ・ 美原区：八上小学校

プロモーション活動

- ・ 4月、堺市立幼・小・中・高へご招待券郵送
- ・ 5月、みどりの集い出店
 - ・ 堺市南区の一大イベント
 - ・ 当日雨天により14時閉収
- ・ 5月、学童保育研修会
- ・ 5月、不登校問題学習会(座長：井前さん)
- ・ 5月、堺市PTA連絡協議会総会

※上映日までに南区および教育関係者が集まるイベントにて集中的に活動

※実行委員のつながり

- ・ 南区在住の知り合いからアプローチ
- ・ 教育委員会への交渉、前売券手渡し
- ・ 市立学校校長教頭への交渉
- ・ 文化施設、フリースクールなどに配架

【今後の課題】

いかに現役教員にお越しいただくイベントにするか、上映会当日は現役教員がお見えにならなかったことが残念である。
日程、場所、内容、告知方法など再検討。

アンケートの分析

午前 94 / 午後 80 → 計 174名
参加者のら劇弱から回答をいただいた。

お寄せいただいたアンケートの文面からキーワードをデータベース化し、集計
976/174 = 1人平均5.6個

※実行委員内では全て共有
紙面の都合、10件以上を表示

「自由」「校長先生」については具体的に書かれている方が多く、実際にはその2つのワードはもっと上位になる。しかし、いただいた方の文脈を尊重し、今回はあまり統合していない。
「校則をなくす」、「通知表をなくす」はそれぞれ、「校則ゼロ」、「通知表ゼロ」へ統合。

本アンケートにご回答いただいた方は、高確率で、「夢みる校長先生」や学校、教育に対して好意的な意見を持たれている方が多い。

順位	キーワード	件数	174	974
1	通知表ゼロ	23	16.67%	2.98%
2	変あるコロナ対策	24	13.79%	2.46%
2	校則ゼロ	24	13.79%	2.46%
4	やぎの飼育	20	11.49%	2.05%
4	西郷ゼロ	20	11.49%	2.05%
6	不登校	19	10.92%	1.95%
7	学校好き	18	10.34%	1.85%
8	伊那小学校	17	9.77%	1.75%
9	機嫌が悪いのは犯罪	16	9.20%	1.64%
10	子どもファースト	12	6.90%	1.23%
11	校長先生	10	5.75%	1.03%

学校生活で当たり前にあるもののうち、「通知表」「校則」「宿題」とらを校長先生の権限でなくすることができることに関心が高い。

「伊那小学校」「やぎの飼育」が上位、やぎの飼育を通じて理科も算数も英語も育む児童の姿。

小学校への宿泊→「学校宿泊」。学校、地域と交流し、避難所運営を学んだ生きた防災訓練。

「競争に負り出されない教育」、「子どもが明日いなくなるまでわかって(宿題をしろとは言えない)」もそれぞれ5名書及。

『夢みる校長先生』上映実行委員会 報告-2

事の本質
属性(児童、学生、教育関係者(元現職含む))
記事の内容を元に分析

目次	件数	構成比	備考
絶叫	27	15.79%	
学校変遷	22	12.67%	
教育関係者	20	11.70%	
打撃希望	7	4.09%	
校長先生	7	4.09%	
6 映画について	6	3.51%全読	
7 教育関係者に見てほしい	5	2.92%	
7 教育変遷	5	2.92%	
7 上校希望	5	2.92%	
10 編年	4	2.34%精神、身体	
10 理想	4	2.34%	
12 その他	3	1.75%	
12 リピーター	3	1.75%	
12 学生	3	1.75%大等生など	
12 映画再論	3	1.75%	
12 子どもファースト	3	1.75%	
12 児童	3	1.75%代筆含む	
12 大人が変わる	3	1.75%	

※実行委員内では全て原文ママ共有

※今回教育関係者(現職、元職)、スガーツ少年団のコーチ、子ども会役員、教育行政に関わる方、市議を含む)から20名ご回答をいただいた

※より現場で実際に教育行政や子どもに接しておられる方からの貴重なご意見が多数集まった。
※ご意見を迅速で抜粋編集して紹介する

【児童】※3名書及

- ・ ころよろしつてあそべたこと。
- ・ 「夢みる小学校」に行きたい。
- ・ 自分が通う小学校もそうなってほしい
- ・ 「もつと学校に自由を」というナレーションに対し「確かにな。ほんまに自由がいいわ」。

【学生】※3名書及

・ 教育実習で現場を目の当たりにし、「先生って公教育ってこんなもんか」と諦めかけたが、そういう教育になじむ先生でありたくないと感じた。

・ 私の学校は、通知表も宿題も校則もテストも校長室もあるので、ルールなどがない学校を見て、子どもがのびのびと過ごしている、一つ一つの時間を楽しんでいるなと思いました。

・ 私の周りの学校では定期テストを廃止し小テストへ移行する学校が増えていく。

【教育関係者】

・ チアダンスコーチとして、日々、子どもたちと触れ合う機会があり、色々考えるきっかけになりました。大人の発想(テストや通知表など)に子どもを入れるのではなく、子どものひらめきに大人が実現できるようなサポートする目にも良いなと思いました。

・ 教育とは、いま一度考えるきっかけをくれたステキな作品でした。子どもにも書かれ、受け継がれてきた「普通」をやめる、子どもファーストな教育を「すくく大切なこと。しかし「怖い」と私たち教員が感じること。様々な誤解で大人の都合のよいように変化させてしまっている学校現場、それをいえる理由で正当化してしまっている私たち、違和感を感じない日々「学校が楽しくない」この言葉に何も感じなくなるほど子どもファーストの考えから年々遠くなっている自分、学校とは、教育とは本質を考えつづき必ず必然性を頂きました。

・ 学校が民主的に運営されることが大切だと思い、現場のころから、職員会議では意見を述べました。管理職の姿勢で、学校が変わるのにはわかりませんが、実践している教師が、自分で考え、仲間と語り、子どもをしっかりと育つて作りあげていくのが、教育実践であり、ドラマもまた多く生まれてきたことを、広く知ってほしい。

・ 元教員です。「夢みる校長先生」がたくさん存在するようになるためには、「夢みる教師」がたくさん存在できる環境が必要です。また保護者が夢を語る場や校長・教員として保護者のコミュニケーションができることが必要です。

しかし、学校では職員会議で「議論」することも人事(役割分担決定)も校長が認めないといけない。そこを根本から変えないと大きくは変えられない。人事評価、学校評価に縛られる学校体制の縛りをなくすこと

【感想交流会について】

とても心が安まる時間でした！仲間と語り合いたい気持ちでいっぱいになりました。チラシ、風呂に持ち帰ります。上映会後に善の先輩方に出会いました。熱意ある姿をずっと見せてきてくれたことを思い出します。何度も助けてくれた、相談できた、励ましてもらったことなど。支えてもらったことを告げたい味わっています。

【絶叫】

・ 西学校での子どもたちの変化をデータで出していたとくより先生たちが取り入れやすくなるのでは？と思いました。

【その後が知りたい】※2名書及

- ・ 「校則ゼロ」「宿題ゼロ」「通知表ゼロ」などの改善をしたその後を知りたい。
- ・ 良い点は良かったが、悪い事は全くなかったのか
- ・ 感動ありきのアンケートはどうかと思う。

9/21『わたしのかあさん』上映会

田中 晋一さん(堺・平和のための戦争展実行委員会)

3週間ほど前でしたけれども、8月3日4日、サンスクエアホールやA棟・B棟を全部借り切ったの堺・平和のための戦争展を開きました。皆さん、本当にありがとうございました。全体として延べ1,200人を超える方にご来場いただきました。戦争展をやり始めてからちょうど20回目を数えるそういう企画でしたので、今年は全部の小中学校にチラシを配って、高等学校にまで、あるいは大学にも足を伸ばして、ぜひボランティア参加をお願いできないかという話もして、若い世代に徐々に広がっています。メインの方では、松野直子さんにお話しいただいた与謝野晶子についてがものすごい好評でした。「象列車」にもたくさん子どもたちが参加しています。素晴らしいものでした。実はこの次の企画がこれからお話になります。



『わたしのかあさん—天使の歌—』。皆さんのところに、こういうチラシを入れています。これを読んでもらうと、児童図書『わたしのかあさん』を原作として、92歳になる監督・山田火砂子さん自身もご自分の娘さんが知的障害をお持ちだと、そういう中で障害者の家族がどういう思いを持っているか、あるいは、いろんな形のつながりで、それを乗り越えて、素晴らしいところにいるということも含めて映画化されたというふうにお聞きをしています。

是非、観ていただこうと思います。チケットをもちろん買い求めていただくのですが、どうしてもチケットが手に入らないという方は、このチラシを持って当日会場に持っていっていただければ、戦争展の机を出しておきますので、それも販売いたします。

その戦争展のまとめの紙も置いてありますので、ぜひこれをしっかり読んでいただければ、それも合わせてよろしくお願いたします。

寺島しのぶ 常盤貴子
高井美緒子 藤友直実
渡辺いづみ 柴ちづる
尾崎正太郎 辰巳琢郎
渡辺梓 菅原敬介
山田邦子 小倉蒼蛙
船越英一郎

わたしのかあさんは、知的障がい者でした。障がい者たちも、私達で幸福な生活を送りたくて描いた映画が過去にあったらいいかな

わたしのかあさん—天使の詩—
山田火砂子
上野有

上映会のお知らせ 各回山田火砂子監督舞台挨拶を予定(開演後、本編上映前)

2024年9月

20(金) J:COM中央区民センターホール (1回のみ上映) ①18:30

21(土) ソフィア・堺(堺市教育文化センター)ホール (各会場1回上映) ①10:30

22(日) 大阪市立大淀コミュニティセンターホール ②14:00

●前売券 一般:1,300円 ●当日券 一般:1,800円 チラシ割引 当日一般:1,500円/小学生:800円

お問い合わせ | 問い合わせ先 070-8933-5703 | 大阪府

児童自立支援施設裁判の状況

廣田 八重子さん (堺の子どもたちを守る市民の会)

今、私たちは堺市を相手に2年前から裁判を行っています。

その内容を簡単に申しますと政令市である堺市として設置しなければいけない児童自立支援施設が10年以上かけてようやく堺市南区に建設されようとしていました。しかし永藤市長になったとたん建設計画が中止になり、今まで通り子ども達は大阪府立修徳学院に委託されることになったのです。

ところが、この修徳学院にあらたに2寮舎が建設され、全額、約3億円以上堺市が負担しました。にもかかわらず、所有権は大阪府にあるのです。これは以前橋下元知事が国の事業費の一部を大阪府に請求してきた事に対して「国はぼったくりバァー」だと言ったことと同じで「府のぼったくり」です。

私たちは裁判に訴える前に住民監査請求で堺市は違法なお金の使い方をしていると訴えました。

4人の監査委員が監査した結果たいへん稀な「合意不調」となりました。

これを踏まえて裁判では予算の差し止め請求を求めたのですが、堺市が既に全額を府に支払いましたので、堺市民の財産を毀損されたものとして市長はじめ会計責任者に損害賠償を求めています。

次回11回目の裁判は大阪地方裁判所で9月27日(金)午後2時30分1007号法廷で行われます。裁判は10分足らずですが、その後弁護士5人が裁判内容を大変分かりやすく説明してくれます。傍聴者が多ければ私たちの励みにもなりますのでよろしくお願ひします。

大阪府の施設建設に堺市がお金を支出することは法律違反です！

堺の子どもは堺で育てる！

そのためにも私たちの運動に支援をお願いします。

堺市政は今まで全会派が承認し約10年かけて計画してきた児童自立支援施設基本計画を2019年8月に中断させ、2020年3月に撤回しました。この間私たちは社会的養護としての堺の子どもを守る児童自立支援施設は堺市に必要だと各会派の議員に働きかけましたが当局は頑なに拒み続けています。

こうした背景としていわゆる「大阪都構想」があると思われます。2020年11月には大阪市における「大阪都構想」に関する住民投票が行われ反対票が上回り否決されましたが、大阪府、市当局は臆面もなく広域行政一元化条例を成立させ実質上の都構想を行おうとしています。さらに今年6月維新の馬場代表は3度目のチャレンジをすると言いつけています。この流れは基礎自治体で最大の権限と財源を持つ政令市である大阪市・堺市を廃止し府へこれらを移譲することであり、地方分権の大きな流れに逆行する暴論です。権限と財源が無くなれば当然政令市の行政サービスが低下します。

堺市と府では、2020年から堺のお金で大阪府の児童自立支援施設2棟を造り、出来上がれば大阪府が所有し、管理運営を行うという計画が進められています。

これまですでに府有地の文化財調査、府旧寮の撤去工事等が堺市のお金で行われています。そして2023年度、堺市は本体工事2億7500万円を計上し、議会で可決され、2024年3月に寮舎が完成しています。

これは堺市が子どもを守るという固有の事務を放棄すると共に、地方財政法の経費負担の原則にも違反する重大な事態です。私達「堺の子どもたちを守る市民の会」は堺市のお金は堺の子ども達の健全育成に使って欲しいと考えます。私達は、地方財政法にも違反するこの流れを阻止したいと2022年10月に堺市に住民監査請求を行いました。結果は異例といえる合意不調となりこれを踏まえて2023年1月に住民訴訟を提起し2年目を迎えています。

今後、われわれが訴訟を闘い抜くには費用と労力、時間、強力な応援団が必要です。堺の子どもは堺で育てるために広く賛同人を募集させて頂くこととし、物心ともに支援をお願いするしだいで。

中世から堺は歴史上数々の危機を乗り越えて自治の歴史を築いて参りました。そうした難局と闘ってきた堺人のDNAが今の私達の中にあると思っています。皆さんとともに子どもたちを育み、誇りある住みよい堺市を目指したいのです。

私たちは児童福祉法が謳う児童支援施設を堺市に設置して欲しいと強く思っています。

(堺の子どもたちを守る市民の会事務局・会計)

〒590-0015 堺市堺区南田出井町4丁4-27 廣田友重

hitorimomisutenai.sakainokodomo@gmail.com

賛同人・カンパ申込書

お名前

ご住所〒

TEL

MAIL

振込口座 三井住友銀行堺支店 普通預金 店番号178 口座番号2037514 名義人 ヒロタトモシゲ



閉会挨拶

先生たちを支える地域の一人に私もなりたい

吉村 薫さん (市民 1000 人委員会事務局)

今日はお忙しい中、また本当に厳しい酷暑の中、足を運んで頂きありがとうございます。司会の塩野さん、司会の大役お疲れ様でした。早乙女さんは、来週から 2 学期が始まるタイミングで報告をして下さり、井前さんはリアルで深刻な内容を分かりやすくまとめて頂きありがとうございました。市議員の方々は、市議会開会中という大変お忙しい中ご参加頂き、また市民運動の方々には、短い時間で密な報告をして下さりありがとうございます。

今回の市政チェック学習会は「堺の教育を考える」がテーマでした。

みなさん、映画『夢みる小学校』はもうご覧になられたでしょうか。昨年、堺でも各地で自主上映され、この市政チェック学習会でも宣伝させて頂きました。先ほど報告のあった河端さんやこの会場にいるメンバーとも一緒に 6 月に『夢みる校長先生』上映会を行いました。お越し頂いた皆さんには、この場をお借りしてお礼を申し上げます。ありがとうございました。

私はこの映画上映会のスタッフとして関わってから、堺の子どもたちが置かれている教育環境の過酷さを少しずつ知るようになりました。一映画ファンとして、一人でも多くこの映画を見てくれる人を増やしたいのはもちろん、それを通じて、今の堺の子どもたちをめぐる環境を少しでも変えるきっかけを作りたい、そのスイッチを押すお手伝いができたらと思って関わってきました。

同時に、実は常に葛藤も抱えていました。個人的な話で申し訳ないのですが、私には子どもがいません。ですので、映画を宣伝する中で、例えば「あなたは子どもがいないのにどうしてこの映画を進めるの?」とか、「あなたは子育ての大変さを知らないでしょう」とか言われたらどうしようかと悩んでいたのです。しかし、そういう当事者性の問題、子どもがいない人であっても、やはり今の子どもたちの苦しい環境とか、学校の先生のしんどい状況というのは心が痛みます。何か自分でできることはないかと考えます。

私は不登校の子どもへの保護者でもなければ教育関係者でもありません。けれども、今回、この堺の教育がテーマになったときに、不登校のお子さんを抱えている保護者の方が、「今回こうやって学習会で取り上げてもらえてうれしい」「これまでは自分たち保護者が、自分たちでどうしたらいいのか考えるしかなかった」と言ってもらえて、そこで自分たち当事者以外の人間に関わることに意味があるのかなというふうに、自分を肯定できました。この会場でも、最初は堺の教育と言っても自分のことじゃないなと思われた方も中にはいらっしゃるかもしれませんが、今回のお二人の非常にリアルで深刻な現状を聞かれて、心が痛まない人はおられないと思うのです。

なので、今日の学習会を通じて、まずは知ること、それから周りの人にこれどう思うってお話ししていただくことです。『夢見る校長先生』でも私たちが考えたかったことは、その校長先生や先生たちを支える地域の大人の存在が大事で、その一人に私もなりたいたと思っています。皆さんにもなって頂いて、子どもたちの置かれている環境を少しでも良くしていけたらなと思います。

つたない挨拶でしたけれども、これで終わらせていただきます。ありがとうございました。



【1000人委員会の輪を拡げて下さい】
ワンコイン500円で市政を変えよう

お知り合い、ご友人にお声をかけて下さい。

賛同人は1206人（8月15日現在）です

みんなでつくろう ええまち堺 市民1000人委員会

【第6期会計（4か月中間）決算報告】

自 2024/05/01 至 2024/08/31

〔収入の部〕	賛同金収入	297,800円	
	販売収入	5,400円	（『市政レポート第16号』）
	寄付金収入	200円	
	会議収益	83,500円	（第13回学習会）
	収入の部合計	386,900円	
〔支出の部〕	会議・集会費	30,950円	（第13・14回学習会、事務局会議）
	通信費	134,302円	（『市政レポート16号』発送等）
	印刷費	162,938円	（『市政レポート16号』等）
	消耗品費	18,508円	（封筒、用紙等）
	支払手数料	330円	（口座徴収手数料等）
	支出の部合計	347,208円	
	〔当期収支差額〕	+39,872円	
〔前期繰越金〕		472,011円	（第5期末：2024年4月30日現在）
	〔残高〕	511,883円	（2024年8月31日現在）
（内訳）	現金	51,677円	
	郵便振替口座	218,966円	
	ゆうちょ通常貯金	241,240円	／計 511,883円

2024年賛同金（一口500円）を本日、受付にてお支払いいただけます。
もしくは、下記にお振込みください。

* **郵便振替口座：記号00930-7-番号325186**

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

* **ゆうちょ銀行・通常貯金 記号：14010 番号：69946591**

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

他の金融機関から振り込む場合は、

【店名】 ヨンゼロハチ（四〇八）**【店番】** 408

【預金種目】 普通預金 **【口座番号】** 6994659（7桁）



2024年9月発行

編集 市民1000人委員会

発行者 市民1000人委員会

〒590-0959

堺市堺区大町西三丁目1番29-502号

TEL 072-229-6331

FAX 072-242-6315

Email Q Y D04504@nifty.com



～たたかう 市民～

振込先

◆郵便振替口座

加入者名：市民1000人委員会 シミンセンニンイインカイ

記号：00930-7-325186

◆ゆうちょ銀行 通常貯金口座

加入者名：シミンセンニンイインカイ

記号：14010 番号：69946591

※他の金融機関からの振り込みの場合は

店名：四〇八 ヨンゼロハチ

店番：408 種目：普通預金 口座番号：6994659

頒価 300円